



学校法人 城西大学

<http://www.josai.jp/>

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学 <http://www.josai.ac.jp/>

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

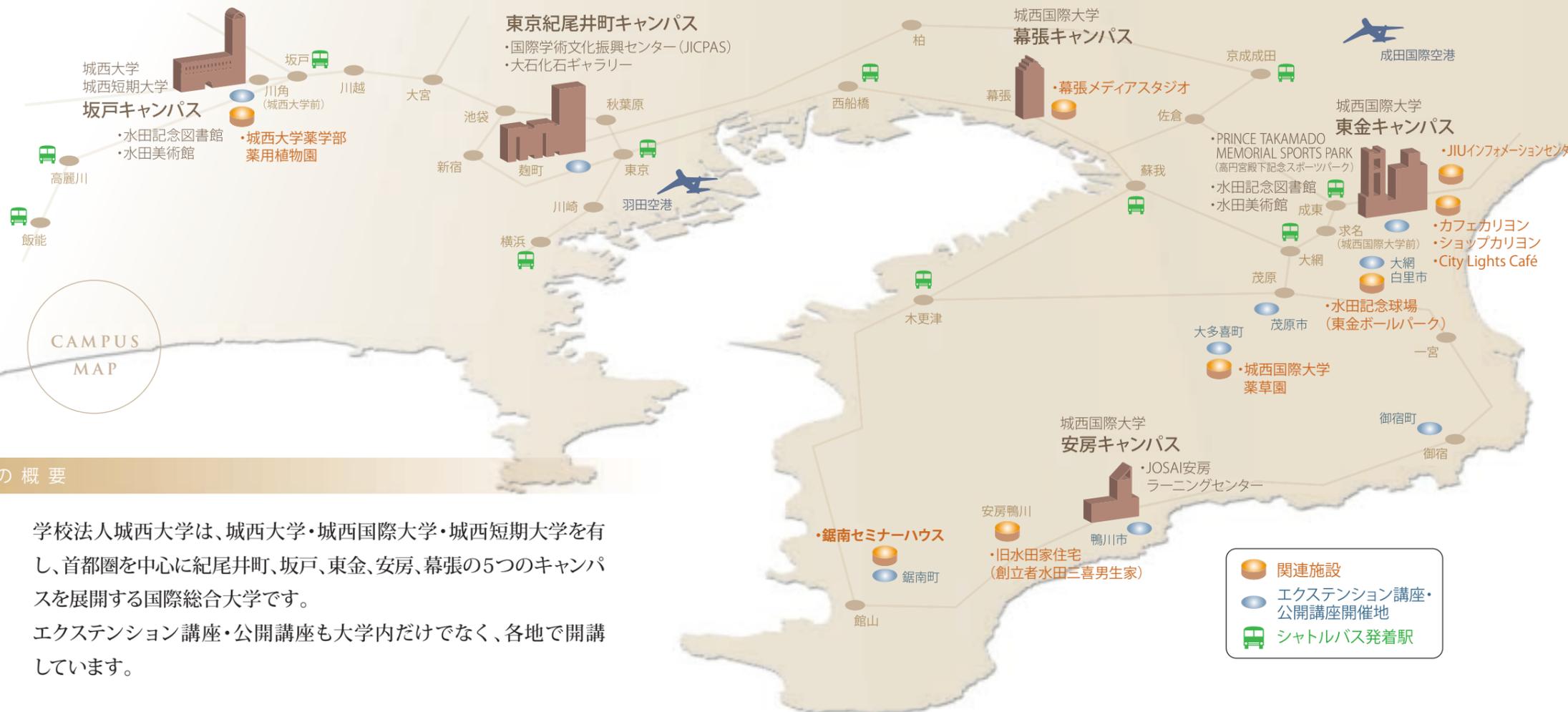
2013

JOSAI UNIVERSITY

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人 城西大学



大学の概要

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を有し、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房、幕張の5つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
 エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 経済学科
- 現代政策学部 社会経済システム学科
- 経営学部 マネジメント総合学科
- 理学部 数学科
- 化学科
- 薬学部 薬学科(6年制)
- 薬科学科(4年制)
- 医療栄養学科
- 大学院 経済学研究科 (経済政策専攻修士課程)
- 経営学研究科 (ビジネス・イノベーション専攻修士課程)
- 理学研究科 (数学専攻修士課程)
- 理学研究科 (物質科学専攻修士課程)
- 薬学研究科 (薬学専攻博士課程)
- 薬学研究科 (薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程)
- 薬学研究科 (医療栄養学専攻博士前期課程)
- 別科 日本語専修課程
- 日本文化専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 経営情報学部 総合経営学科
- 国際人文学部 国際文化学科
- 国際交流学科
- 福祉総合学部 福祉総合学科
- 薬学部 医療薬学科(6年制)
- メディア学部 メディア情報学科
- 環境社会学部 環境社会学科
- 看護学部 看護学科
- 大学院 人文科学研究科 (国際文化専攻修士課程・女性学専攻修士課程・比較文化専攻博士後期課程・グローバルコミュニケーション専攻修士課程)
- 国際アドミニストレーション研究科 (国際アドミニストレーション専攻修士課程)
- 経営情報学研究科 (起業マネジメント専攻修士課程・同博士後期課程)
- ビジネスデザイン研究科 (ビジネスデザイン専攻修士課程)
- 福祉総合学研究科 (福祉社会専攻修士課程)
- 薬学研究科 (医療薬学専攻(博士課程 4年制))
- 留学生別科 日本文化・ビジネス専修課程
- 日本語専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 ウェルネスツーリズム学科

幕張キャンパス

- メディア学部 メディア情報学科
- 国際人文学部 国際文化学科 (中国言語文化・韓国言語文化コース1年次)

城西短期大学〈城西ベースカレッジ〉

- 坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス
- ビジネス総合学科

東京紀尾井町キャンパス
 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
 TEL.03-6238-1300

坂戸キャンパス
 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
 TEL.049-286-2233

東金キャンパス
 〒283-8555 千葉県東金市求名 1 番地
 TEL.0475-55-8800

安房キャンパス
 〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
 TEL.04-7098-2800

幕張キャンパス
 〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
 住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
 TEL.043-297-2521

CONTENTS

3 理事長 緒言
 次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み
 大学の社会的責任を果たすために

トピックス

5 中欧・北欧との国際交流の進展

地域・社会貢献活動

- 7 短期大学創立30周年、薬学部創設40周年記念関連
- 9 教育施設の充実—紀尾井町キャンパス3号棟開設
- 11 埼玉・坂戸地域の活性化
- 15 千葉・東金・鴨川地域の活性化
- 19 学会発表、受賞
- 21 産・学・官連携

国際社会への貢献

- 25 中国との交流
- 27 ASEANとの交流
- 29 広がる国際交流
- 31 国際人材の育成

次世代育成 / 文化・スポーツ振興

- 33 子どもたちとともに
- 36 文化・メディア振興
- 38 建築賞受賞
- 39 美術館
- 41 Message
- 42 編集後記

各記事タイトル横のロゴマーク

- : 主に城西大学関連
- : 主に城西国際大学関連
 の活動の紹介です。



学校法人城西大学
理事長
水田宗子

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み 大学の社会的責任を果たすために

2013 JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に5つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、鴨川、幕張)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。

2013年度におけるこれらの代表的な取り組みについて本冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動 学校法人城西大学各キャンパスにおいて、地域の社会や文化・経済・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行なっています。また、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を学内・外で開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。

城西大学では、創立50周年に向けて、地域・行政と連携して教育・研究・社会貢献を目指すプロジェクト「J-CLIP」をスタートしてさまざまな活動を行うとともに、城西短期大学創立30周年および城西大学薬学部創設40周年の記念式典および多くの関連行事、シンポジウム等を行いました。

城西国際大学は一昨年4月に創立20周年を迎え、今年も1年を通してさまざまな学術シンポジウムや国際交流活動、各種の地域イベント等を積極的に展開しました。

産学官連携では、日活やエイベックス・プランニング&デベロップメント社、サンミュージック等との提携により、本学ならではの長所ある次世代人材育成プログラムを数多く推進しています。また、産学官協働事業の拠点となるイノベーションセンターや、世界でリーダーシップを発揮できる人材育成教育を目的とした大学院センター等で積極的な活動を展開しています。

さらに、政策提言活動として2014年2月には、本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「ヴィシエグラード4か国(V4)+日本 安全保障セミナー」が、外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。

なお、昨年4月には東京紀尾井町キャンパスに3号棟を開設し、本学が取り組む「幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材育成」のさらなる強化と国際教育の充実を図っています。

国際社会への貢献 国際性・専門性を備えたグローバル人材の育成を目指して、世界各地の大学と教育ネットワークを結び、各種の国際教育プログラムを積極的に実施しています。

その中でも、本学は特に中欧とアジアにおける教育交流を強化しており、昨年度もこれらの地域の大学と新たに学術交流協定を締結し、国際交流を通じたグローバル人材育成に力を入れてきました。また、中欧地域とのさらなる共同研究・学術交流・人材育成の推進、教育支援を目的に「中欧研究所」を設立しました。そして、これまでの日本とハンガリーの教育交流に関する貢献が認められて、ハンガリー国より 中十字勲章を授与されました。

その他の国や地域との交流も進み、今年度は海外の23大学や機関と新たに学術交流協定を締結しました。

文化振興・文化資源保存活動 学校法人城西大学は、両大学に水田記念美術館を有し、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展などを催しており、多くの方々にご来場いただいております。そして、紀尾井町キャンパス3号棟には、数々の貴重な化石標本を収蔵する「大石化石ギャラリー」も開設しました。

また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々と一緒に、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、各キャンパスの建物や美術館や旧水田家住宅などにおいて、国内外で多くの建築賞を受賞しています。

城西大学は2015年に創立50周年を迎えます。2011年に本学は、幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材を育成し、アジア・世界でのリーディング・ユニバーシティになることを中期目標《J-Vision》として掲げました。この目標の実現に向けて、全学一丸となって取り組んでいます。

そして、これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に社会に貢献し、次世代に文化を伝え、人材を育成するとともに健康で豊かな暮らしを実現するために大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

2014年3月

学校法人城西大学
理事長

水田宗子

中欧・北欧との国際交流の進展

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に「ヴィシエグラード4カ国(V4)」を中心とする中欧地域や北欧との教育交流を強化しています。ここでは、それら中欧地域や北欧との主な交流をご紹介します。

ハンガリーのオルバーン首相が来学

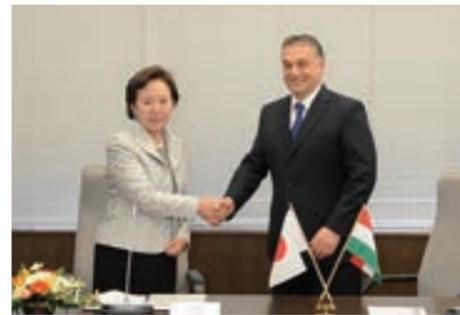
2013年11月21日、ハンガリー首相のオルバーン・ヴィクトル閣下が本学東京紀尾井町キャンパスに来学されるとともに、本学からの名誉博士授与および特別講演会が行われました。

この度のご来学は、本学とハンガリーおよびハンガリーの大学との深い学術交流がハンガリーで高く評価され、オルバーン首相の公式訪問となって実現したものです。また、ハンガリーの政府要人の本学へのご来学としては、2009年12月のショーヨム・ラスロー大統領(当時)に続くものです。

水田理事長との会見後、オルバーン首相への城西大学 名誉博士授与式が地下ホールにて行われました。今回の授与は、ハンガリーを今日の繁栄に導いてこられた首相の長年に渡る活動と功績を称えて決定したものです。

その後、ご来学を記念して、首相に「変化する世界の中のハンガリーとヨーロッパ(Hungary and Europe in a Changing World)」というタイトルで特別講演を行っていただきました。講演では、近代におけるハンガリーの体制、経済の変遷と、それに影響を与えたヨーロッパ全体の歴史とこれからの展望への考察、そして、これからの世代を担う若者達へのメッセージなど、四半世紀にわたり政治の第一線でハンガリーの変革を指導してこられた実体験に基づいたお話を頂戴しました。会場では「ヴィシエグラード4カ国(V4)」の代表をはじめ、ハンガリーおよび本学に縁の深い招待客の方々や、本学の教員・学生や留学生ら約150名が熱心に耳を傾けていました。

特別講演終了後、首相は地下ホワイエにて、ホールに入りきれなかった本学の大勢の学生やハンガリーからの留学生らに囲まれて、しばし交流の時間をもちました。交流の場では、ハンガリー語を学ぶ本学の学生が流暢なハンガリー語で首相に挨拶して来学の御礼を申し上げると共に、ハンガリーからの留学生も日本での充実した留学生活の報告などをしました。



握手するオルバーン首相(右)と水田理事長



講演後、学生たちとの記念撮影

中欧研究所を設立

学校法人城西大学は、ハンガリーのオルバーン首相が本学東京紀尾井町キャンパスに来学された機会に合わせて、中欧地域でのさらなる共同研究・学術交流・人材育成の推進、学部・大学院教育支援を目的に「中欧研究所(The Josai Institute for Central European Studies)」を設立しました。

同研究所は、本学法人内の学術センターとして本学紀尾井町キャンパスに設置し、両大学を含む本学グループ全体で、ハンガリーをはじめ、チェコ、ポーランド、スロバキアを加えたV4を中心とする地域を第一義に、その周辺国を加えた中欧における国際教育・連携の推進機能を担います。また、研究所の重要性と公的な意義から、チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4カ国の大使を名誉所長としてお迎えします。

そして、研究所の設立を記念して、オルバーン首相よりハンガリーの文化等に関する学術書が多数寄贈されました。



オルバーン首相から水田理事長への学術書寄贈

中欧・北欧との国際交流の進展

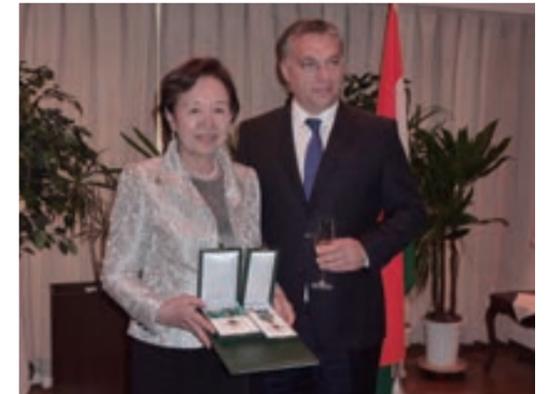
水田理事長がハンガリー国から中十字勲章を授与

2013年11月21日、ハンガリー大使館において、水田宗子理事長に、Commander's Cross of the Order of Merit of Hungary (civil division) ハンガリー国 中十字勲章が、ハンガリーのオルバーン首相より授与されました。

これは、ハンガリーと日本両国間における教育・研究、人材育成への大きな貢献が認められてのことです。

ハンガリーの叙勲制度の中で、Order of Merit of Hungary は、1991年設定されたハンガリー最高の勲章とされ、民間部門と軍事部門と分かれており、Commander's Crossは、民間の外国人に与えられるものでは最高位とされています。過去の日本人の受勲者としては、米倉弘昌経団連会長、海部俊樹元首相等がいます。

なお、水田理事長は、既に2011年5月に、ハンガリー政府よりPro Cultura Hungarica(ラテン語:「ハンガリー文化のために」の意味)の勲章を授与されています。



オルバーン首相より叙勲を受ける水田理事長

水田理事長がスウェーデンの「チカダ賞」を受賞

学校法人城西大学の水田宗子理事長は、スウェーデン大使館より詩人としての活動が高く評価され、東アジアの生命の尊厳を表現する詩人に授与される「チカダ賞」を受賞し、その授賞式が2013年12月9日スウェーデン大使館にて行われました。

この賞は、スウェーデンの詩人でノーベル文学賞受賞者ハリー・マッティンソン生誕100周年を記念して2004年に設立された賞で、この賞の名前は、1953年に出版されたマッティンソンの詩集「チカダ(“蟬”の意)」に由来します。

今回の授与は同賞の設立以来6回目となるもので、これまでに宗左近氏、金子兜太氏、高銀氏(コ・ウン)、申庚林氏(シン・ギョニム)、文貞姫氏(ムン・ジョンヒ)の著名な詩人5人が受賞しており、日本人としては3人目の受賞となります。

授賞式では、最初にラーシュ・ヴァリエ大使が挨拶し、「水田宗子さんの詩は、海外生活において幅広い経験をし、近代化と女性表現を研究してきた喪失の悲しみの深さを押し隠し、感情を対象化して、清新な作品として独自の詩世界を成立させています」と紹介しました。その後、大使より水田理事長にチカダ賞の賞状とトロフィーが手渡されました。このトロフィーは、スウェーデンの著名な陶芸家Gunilla Sundström氏の手によるもので、詩集「チカダ」の内容にインスパイアされて制作されたものです。

なお、今回の受賞記念のシンポジウムを本学にて2014年6月に開催する予定です。



ヴァリエ大使(左)より賞状を受け取る水田理事長



チカダ賞の賞状とトロフィー

城西短期大学創立30周年、城西大学薬学部創設40周年記念関連

城西大学は、2015年の創立50周年を前に、2013年に短期大学が創立30周年、そして薬学部が創設40周年の大きな節目の年を迎えました。

ここでは、アニバーサリーイヤーを記念したイベントや取り組みを紹介します。

短期大学創立30周年、薬学部創設40周年の記念式典・祝賀会

2013年10月5日、城西大学坂戸キャンパスにおいて、城西短期大学創立30周年および城西大学薬学部創設40周年の記念式典・祝賀会を行いました。

式典には、ブルガリア共和国駐日大使ゲオルギ・ヴァシレフ閣下、石川清 坂戸市長をはじめとする多くのご来賓や、地域の皆様、薬学部および短期大学卒業生、在学生、教職員らが集いました。

午前中に清光ホールで行われた式典では、水田宗子理事長が「短期大学30周年、薬学部40周年は、創立からの城西大学の歩み、その教育成果の大きな一区切りを作るものであり、間近に迫った大学創立50周年の先駆けとなる重要な節目でもあります。城西大学が順調に本来の教育事業を持続的に発展させてこられたのは、教職員の努力はもとより、ひとえに地域の皆様方のご支援と励まし、卒業生、父母後援会、地域の自治体、多くの企業と高等学校の皆様のご支援の賜物です」と挨拶しました。

式典終了後、城西短期大学創設者 故水田清子名誉理事長の功績を顕彰するとともに、短期大学創立30周年と薬学部創設40周年を記念して設立された「水田清子記念ローズガーデン」のオープニングセレモニーも行われました。なお、本ローズガーデン開設に際しては、薔薇の花で大変有名なブルガリアから「ナディア」と呼ばれるバラの苗木をいただきました。セレモニーでは、水田理事長やブルガリアのヴァシレフ大使、石川市長、森本学長らがテープカットを行った後、関係者による「ナディア」の苗木の植樹式も行われました。

午後は、総合体育館にて祝賀会が盛大に催されました。アトラクションの冒頭では、城西国際大学から高さ2メートル以上の特大ケーキがプレゼントされ、短期大学、薬学部の在学生や卒業生、理事長や森本学長らがひとりずつステージに上がり、合計40本のお祝いのキャンドルをケーキに立て、全員で盛大に祝福しました。



記念式典の様子



ローズガーデンでのナディアの植樹式

記念祝賀会に薬学部がメニュー提供

短期大学創立30周年、薬学部創設40周年の記念祝賀会では、薬学部医療栄養学科の学生が考案したメニューから3品が料理の一部としてお客様に提供されました。

それらは、秋の味覚であるさつまいも・りんご・くるみを地元特産の柚子とブルガリアヨーグルトで和えたサラダ「柚子香る 秋の味覚のヨーグルトサラダ」と、坂戸ブランド野菜として人気のルーコラと南瓜を合わせた、色鮮やかでまろやかな味わいの「ルーコラと南瓜のシンデレラスープ」、大根・れんこん・長芋の歯ごたえと柚子肉味噌の風味とチーズのククがマッチした「根菜のミルフィーユ 柚子肉味噌かけ」です。

これらは、地元特産品を活用するとともに栄養学的見地から十分に研究・吟味されたメニューであり、プロの手によって美しく盛りつけられた3品はお客様からも「美味しかったよ」と大変好評でした。



学生考案による「ルーコラと南瓜のシンデレラスープ」

城西短期大学創立30周年、城西大学薬学部創設40周年記念関連

水田家より近世・近代絵画の名品9点が本学へ寄贈

水田家より、宮川長春《江戸風俗図巻》をはじめとする、近世・近代絵画の名品9点が本学へ寄贈されました。各作品の概要は次の通りです。

- ①宮川長春《江戸風俗図巻》部分、絹本着色、二巻、江戸中期
芝居小屋と吉原の遊郭という江戸の二大遊興地を、上下巻それぞれに描いた風俗画の傑作。長らく秘蔵されてきたため、保存状態が極めて良く、描かれた当時の色が鮮やかに残っています。



宮川長春《江戸風俗図巻》部分

- ②川又常正《追羽根図》紙本着色、一幅、江戸中期
娘がついた羽根が二階座敷に飛んでいき、若衆が羽根を返そうとする場面で、初々しい恋の予感が表されています。
- ③菱川派《美人図》紙本着色、一幅、江戸中期
女性は、唐草模様、絞りと縫箔の花模様を散らした華やかな着物をまとっています。
- ④長原梅園・平井連山《太夫雛祭り図》絹本着色、一幅、江戸後期
満開の桜が描かれた屏風の前で、人形を抱き、振り返る太夫。
- ⑤月岡芳年《金太郎図》絹本着色、一幅、幕末・明治
金太郎が巨大な鯉をつかんだ逸話を、浄瑠璃「嬬山姥」の一場面を交えて描いています。
- ⑥菱田春草《春景山水》絹本着色、一幅、明治30年代(1897~1906)
- ⑦前田青邨《紅白梅》紙本着色、一幅、昭和
- ⑧松林桂月《八仙花》絹本着色、一幅、昭和25年(1950)
- ⑨金島桂華《菖蒲》紙本着色、一幅、昭和

なお、これらの作品は、短期大学創立30周年・薬学部創設40周年を記念して城西大学水田美術館で特別に公開し、多くの方が鑑賞されていました。



月岡芳年《金太郎図》



菱田春草《春景山水》

30/40周年記念に薬学部で化粧水を企画・開発

城西大学薬学部では、短期大学創立30周年・薬学部創設40周年を記念して、香り高いブルガリア産のローズを使用した化粧水「JUブルガリアンウォーター」を企画・開発しました。ローズは、収れん・殺菌・抗炎症など肌を若く蘇らせる作用があり、古くから化粧品や石鹸に使われてきました。また、ローズの香りは、ストレスや緊張をほぐすリラックス効果が高いことで知られています。

薬学部の学生と教員が、薬学の専門知識を活かしたローズウォーターの香りや使用感に関係する処方決定だけでなく、商品コンセプトやボトルの色や包装ラベルなどのデザインについてもさまざまな意見を出し合って企画・開発を進めて製品化しました。

記念式典でも販売したところ非常に好評で、多くの方にご購入頂きました。



JUブルガリアンウォーター

教育施設の充実－紀尾井町キャンパス3号棟開設

紀尾井町キャンパス3号棟の竣工披露

2013年4月12日、学校法人城西大学の東京紀尾井町キャンパス3号棟の竣工披露が、近隣の方々や学校関係者、設計・建築関係者、本学との交流の深い国々の大使館関係者、政府・経済団体、企業関係者、マスコミなど約300名を招いて行われました。

初めに、北側エントランスにて水田宗子理事長、森本雅憲城西大学学長、柳澤伯夫城西国際大学学長らによるテープカットと定礎式が行われました。

紀尾井町キャンパスは、3号棟の竣工により、新設された城西大学理学部数学科の応用数学コース、城西国際大学大学院国際アドミニストレーション研究科および人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻、城西国際大学メディア学部映像芸術コースなど、新しいフィールドの課程が先進的に活用できるキャンパスとして新しくスタートしました。

3号棟は、延べ床面積が約7,700㎡、地下1階地上5階建ての建物で、約250名収容の大教室をはじめとして中教室や小教室が整備され、最上階の5階には同時通訳ブースを備えた国際会議場も設置されています。同会議場の前には広々とした屋外テラスもあり、会議の合間に四季折々の植栽に囲まれて憩いの一時を過ごすことができるようになっています。

また、この建物は災害に対する備えも充実しており、十分な耐震性能をもっていることはもちろん自家発電装置等も装備し、万一の事故や災害の際には、学生や教職員はもとより近隣住民の避難の際に必要なさまざまな災害救援物資を収納する災害備蓄倉庫も完備されています。



3号棟外観



5F国際会議場



恐竜の全身骨格標本



化石ギャラリー

化石ギャラリーで小中学生向けワークショップを展開

2013年4月の3号棟開設に合わせて、学校法人城西大学水田記念博物館大石化石ギャラリーが3号棟地下にオープンしました。

本ギャラリーは、かずさDNA研究所理事長・分子生物学、分子遺伝学者でもある大石道夫氏ならびに中国の姉妹校から提供を受けた化石等を主な収蔵品としており、国際教育連携の促進だけでなく、ワークショップやギャラリートークなどを通じて、地域や近隣の子どもたちが科学教育に興味を持てるような活動を積極的に行っています。

2012年の夏休みには、8月下旬に小中学生向けワークショップを6日間開催し、近隣の小中学生が多数参加しました。ワークショップでは、ノジュールという化石が入っている岩を子どもたちがハンマーで割って4億5千万年前の三葉虫の化石を取り出したり、アンモナイトの化石をルーペで観察してグループ分けするなど、実際に化石に触れて学べる体験プログラムを行い、子どもたちにも大好評を博していました。ワークショップは現在も随時実施中です。



ワークショップでの説明を真剣な眼差しで聞く子どもたち

教育施設の充実－紀尾井町キャンパス3号棟開設

日本／アジア映像研究センター、城西国際大学メディア学部共催によるシンポジウム「Supernatural Asia」を開催

2013年4月27日、東京紀尾井町キャンパス3号棟竣工記念として、学校法人城西大学 日本／アジア映像研究センターならびに城西国際大学メディア学部主催、日活株式会社の協力によるシンポジウム「Supernatural Asia－アジア映像における自然性と超自然性」を開催し、日本およびアジアの映像文化における「自然性」と「超自然性 (Supernatural)」「不自然性」を基本テーマに、現在の日本やアジアで、どのように自然性と超自然性が取り上げられるかをさまざまな形で考え、議論しました。



上映後に作品について語る中田監督

シンポジウムの冒頭で、水田リピット 日本/アジア映像研究センター所長、南カリフォルニア大学 映画技術研究科学科長が挨拶し、第1部では、映画「リング」「リング2」等のヒットで知られる映画監督の中田秀夫氏を迎えて、2005年にハリウッドで公開された同監督の作品「ザ・リング2」の上映会を行いました。上映後、監督がステージで本作品に対する思いや制作にまつわるエピソードなどを語るとともに、映像制作を目指すメディア学部の学生たちとの間で作品に関する活発な質疑応答も行われました。

第2部の講演会では、Felicidad Bliss Lim准教授 (University of California, Irvine)と、井上間従文准教授 (一橋大学)による講演会が行われました。その後の第3部では、「Supernatural Asia」をテーマにワークショップが行われ、活発な議論が展開されました。

山形国際ドキュメンタリー映画祭東京イベント「ドキュメンタリー制作者のためのフェアユース」を開催

不要に著作権侵害をおそれたり見過ごしたりしないために、「フェアユース」を知ることがを目的に学校法人城西大学 日本／アジア映像研究センターと山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局が協力し、2013年10月18日シンポジウムを東京紀尾井町キャンパス3号棟にて開催しました。

はじめに、ゴードン・クイン氏 (映画プロデューサー「フープ・ドリームズ」「スティビー」) が講演、インタビューした喫茶店で流れていた音楽は権利処理すべきか、原発推進のプロモーションビデオを使って政府政策を批判する映画は作れるのかなど具体的な事例を映像で示しながら、アメリカでドキュメンタリー制作者たちが法律家と編み上げ広めたフェアユース・ガイドラインの現状を説明しました。



フェアユースの現状を語るゴードン・クイン氏

その後、山上徹二郎氏 (映画プロデューサー「エドワード・サイドOUT OF PLACE」) とジャン・ユンカーマン氏 (映画監督「映画日本国憲法」) が加わり、会場と質疑応答をしつつ、それぞれの立場と意見を述べました。会場には、多くのドキュメンタリー映画監督や報道関係者がきており、実践的且つ幅広い議論がなされ、極めて有意義な時間となりました。まだ、日本においては、フェアユースの考え方や運用は端緒にすぎたばかりで、今後本学のセンターも積極的に啓蒙活動等を推進していく考えです。

埼玉・坂戸地域の活性化

連携教育・研究推進プロジェクト(J-CLIP)スタート

城西大学は、地域課題の解決を通じた教育・研究プログラムを体系化することで、地(知)の拠点としての機能や教育の質を飛躍的に高めることを目的としたプロジェクト活動「連携教育・研究推進プロジェクト(J-CLIP)」を全学で展開中です。

本学では、これまで「高麗川プロジェクト」や「休耕地活用プロジェクト」「特産品を利用した商品開発への協力」「地域図書館とのネットワーク」「スチューデント・インターンシップ」など、さまざまな分野での地域連携に取り組んできましたが、それらをさらに体系的に進めていくものです。

本学は建学当初から地域に根ざした大学を理念の一つに、大学近隣の自治体である坂戸市・毛呂山町・越生町・鶴ヶ島市・日高市との相互連携協力に関する基本協定書を調印し、包括提携を進めてきました。本プロジェクトでは今後「地域課題の解決を旨とした教育カリキュラムの策定」や「地域を志向した大学であることの宣言と、地域の声を受け止める体制の整備」「自治体との対話の場の設定と、自治体からの支援の受け皿の用意」などに取り組んでいきます。



高麗川プロジェクトの活動風景



休耕地活用プロジェクトのようす

「J-CLIP」の「こま川めし」プロジェクトで低カロリースイーツを開発

城西大学薬学部では、「J-CLIP」の一環として、地元の食材を活かして健康にいい日常的な食を開発する「こま川めし」プロジェクトを推進中です。

このプロジェクトでは、食品や食材に含まれる成分だけに注目するのではなく、その歴史的・社会的背景も考察して今後の地場産業化・特産物化も視野に入れながら新たな食品・食材の開発やその調理方法・メニューを提案するもので、薬学部医療栄養学科の栄養管理設計学、分子栄養学、食品機能学の3つの研究室によって進められています。これまでに開発したメニューは奥武蔵名産の香り高い柚子と国産紅茶の先駆け「さやま紅茶」が出会った柚子紅茶の「ゆずべに」をはじめ、約20種類にも及びます。



シフォンケーキ「Pofa」

そして、このプロジェクトからこのたびスイーツも開発されました。ハンガリー語の「ほっぺ」を意味する「Pofa(ポファ)」と名付けられた、ふわふわのシフォンケーキです。このケーキは1個80キロの低カロリーが特長で、日高市産の狭山茶を使った緑茶味、毛呂山・越生産の柚子を使った柚子味、そして毛呂山産のブルーベリーを使ったブルーベリー味の3種類があります。12月14日に坂戸キャンパスで行われたライトフェスティバルで販売したところ、用意した計300個が10分で売り切れるほどの人気となりました。

なお、このプロジェクトの研究成果は、本学ホームページの他、レシピ、リーフレット等によって一般公開するとともに、日本食生活学会などでも発表を予定しています。



植物園での収穫のようす

埼玉・坂戸地域の活性化

大学周辺3市長による経済学部まちづくりシンポジウムを開催

城西大学は、「J-CLIP」プロジェクト活動の一つとして、2013年10月7日に、経済学部まちづくりシンポジウム「地域の未来をデザインする」を開催しました。シンポジストとして地元坂戸市の石川清市長、隣接する鶴ヶ島市の藤縄善朗市長、東松山市の森田光一市長の3人にご登壇いただき、コーディネーターとして経済学部の教員2名が議論に加わりました。

このシンポジウムは、未来へ向けた特徴のあるまちづくりを進めている3市長に、それぞれが描く地域の未来と城西大学への期待等について議論していただいたものです。

シンポジウムでは、はじめに藤縄市長から、大学連携による未来との対話プロジェクト2013や、本学との連携で取り組んでいるサフランで鶴ヶ島を元気にするプロジェクトなどについてお話いただきました。続いて、森田市長からは、埼玉県からモデル事業として指定を受けているエコタウン構想と、健康長寿のまちづくりなどについてのお話がありました。石川市長は、城西大学とのさまざまな連携事例や、関越自動車道のスマートインター設置に関してなどのお話をされました。

その後、コーディネーターとともに国土交通省が進めているコンパクトシティや大学を含めた地域連携による共助社会づくりなどについて白熱した議論が展開され、500人を超える参加者は市長たちの議論に熱心に耳を傾けていました。

そして、今後も引き続き城西大学と地域との間で一層の連携促進を図っていくことを相互に確認して、シンポジウムは終了しました。



シンポジウムのようす

イスラエルテーブルウェア展を開催

城西大学水田美術館では、駐日イスラエル大使館の後援、ホロン・デザインミュージアムの協力により「イスラエルテーブルウェア展Around a Dinner Table—ディナーテーブルを囲んで—」を、2014年2月7日より4月19日まで開催しました。開催前日の2月6日には、駐日イスラエル大使館よりペレグ パブロ レヴィ公使が来学され、オープニングセレモニーが開催されました。

この展覧会では、優れた芸術性で近年世界的に注目を集めているイスラエルのデザインのうち、ホロンにあるデザイン専門の美術館「ホロン・デザインミュージアム」のテーブルウェアコレクションの中から21組の若手デザイナー、スタジオおよびデザインレーベルの作品を紹介し、ディナーテーブルに欠かせない食器類を展示しました。

セレモニーでは、水田理事長の挨拶の後、レヴィ公使が挨拶され「イスラエルで最も大切なのは台所、そして重要な場所は家族が囲む食卓です」と話しました。当日は、ホロコースト記念館の吉田明夫副館長をはじめ、日本イスラエル親善協会の秋山哲会長および池田真副会長、坂戸市オープンガーデンの皆様、アパートオーナー会の皆様等多くの方が来場され、独特でユニークなデザインの作品群を楽しまれました。

また、ご列席の方々は水田清子記念ローズガーデンを見学し、ローズガーデンにてこのたびホロコースト記念館より本学に特別に寄贈された「アンネフランクの形見のバラ」を鑑賞しました。



展示会を鑑賞するレヴィ公使(左)と水田理事長ら



埼玉・坂戸地域の活性化

現代政策学部・薬学部・城西健康市民大学で合同授業

城西大学では、学部と世代を超えた学びの場として、2013年11月16日に、現代政策学部石井ゼミと薬学部薬科学科1年生、社会人が参加する城西健康市民大学による合同授業「フィールドワーク」を行いました。

授業では、まず1時限目に、2009年より現代政策学部が取り組んでいる「休耕地活用プロジェクト」の概要や取り組みについて皆で学んだ後、2限目には高麗川沿いに広がる休耕地に行き、石井ゼミ生の指導のもと、この春から同ゼミと薬科学科1年生が育てたレモンバームを収穫する体験をしました。



3時限目は、薬学部演習室に移動し、薬科学科の指導により、休耕地で栽培したレモンバームを皆で収穫グループ毎にレモンバームの葉からオイルを抽出しました。なお、抽出を待つ間の時間を使って、石井ゼミの企画運営のもと、薬科学科生はハーブを使った商品展開や利用方法を考える授業も行い、ハーブエキスを使った「バスソルト」作りも体験しました。約1時間後に抽出も終わり、ビーカーに溜まったハーブ水の表面に、小さな丸い形できれいなオイルが浮いてきました。

「学部教育」や「社会人教育」、そして「休耕地」という社会の課題までも一つに結び付けた今回の合同授業を通じて、石井ゼミ生は授業全体を企画し、ハーブを育てて薬学部生に教えることで社会人基礎力のアップに繋がりました。また、薬科学科生にとっては、将来の自分たちが関わるかもしれない製品が、どのようにして作られるのかを体感し、商品に結び付けるといった貴重な体験にもなりました。参加者たちはそれぞれの専門外の分野での新鮮な学びや驚きがあるとともに、世代を超えてのコミュニケーションも深まり、講義だけでは得られない充実感を感じられる授業となりました。

彩の国連携力育成プロジェクトとして、医療施設で専門職連携実践

2013年8月27日から30日までの4日間、城西大学薬学部は埼玉県内の医療施設5ヶ所でIPW実習（Interprofessional Work：専門職連携実践）を行いました。本取り組みは、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」に採択されたもので、彩の国連携力育成プロジェクトとして埼玉県内の4大学（城西大学、埼玉医科大学、埼玉県立大学、日本工業大学）が専門職を育成する連携科目の共同開講を目指した事業です。今回、本学からの薬学科3名および医療栄養学科3名を含め、4大学から総勢25名の学生が参加しました。



実習の内容は、対象患者（利用者）ご本人や専門職スタッフが患者ご本人へのインタビューをもとにケアプランを作成し、インタビューによりさまざまな情報を収集し、問題点を抽出・整理分析した後でケアプランを立てるもので、学生達はそれぞれの専門の観点からディスカッションを繰り返しました。薬学科の学生は薬物療法や医薬品の適正使用の観点から、また医療栄養学科の学生は制限食の確認や栄養摂取の側面からそれぞれ問題を抽出し、ケアプランを作成しました。

この実習を通じて、学生達はチーム形成の難しさと同時に多職種連携がもたらす奥深さや素晴らしさを実地で学ぶことができ、まさに専門職連携教育の真骨頂がここにあると感じた4日間でした。実習最終日の全体発表会では、グループごとに特徴のあるプレゼンテーションを行い、それぞれのケアプランやチーム形成のプロセスを説明しました。

埼玉・坂戸地域の活性化

50周年に向け、サッカー場が人工芝に

城西大学坂戸キャンパスの総合グラウンドのサッカー場が人工芝となり、そのオープニング・セレモニーが2013年11月17日に同グラウンドで行われました。水田宗子理事長、森本雅憲学長らのほか、サッカー部の猿山誠監督、三原久人主将らがテープカットを行い完成を祝いました。



水田理事長はあいさつで「本学は建学の精神にスポーツを通じた人間形成もあっており、スポーツに力を入れてきました。50周年を迎える記念事業の一環として、サッカー部がもっと力を発揮できるようにと願って人工芝にしました。今日を一つの励みとして心と体を鍛えて下さい」と述べました。セレモニーの後には、城西国際大学サッカー部との記念試合も行い、選手は新しいピッチで全力のプレーをしました。

人工芝となったサッカー場全景

なお、今後は、地域や地元のサッカークラブなどにもグラウンドを貸し出し、サッカー大会など地域の方のスポーツの場としても活用していく予定です。

「まちづくり講義」の一環としてクリーンキャンペーン実施

城西大学経営学部では、「まちづくり」という講義科目を通じて、まちづくりの一環として前期と後期の年2回、大学周辺のクリーンキャンペーンを実施しています。近年は、坂戸市だけでなく毛呂山町にもエリアを拡大してクリーン活動を行い、大学周辺や街の全域を歩いてゴミを拾うことで大学と地域の連携に一役買っており、数百名の学生が大挙して地域の清掃をする様は壮観です。



2013年度は7月に坂戸キャンパス・川角・西坂戸団地周辺を清掃し、12月には北坂戸駅から坂戸駅までを清掃しました。冬場は北坂戸駅前に堆積している落葉の片付けから始まり、両駅間の街を

沢山のごみを収集する学生達

チェックしながら全員がキャンペーン用の腕章を巻き、ごみ袋片手に活動しました。この授業はポイント制を採用しており、授業の中だけでなく土日や祭日、休み期間を活用して街で行われる各種イベントに参加してポイントを貯め、その合計が地域貢献値として成績に反映されるため、人気講座の一つになっています。

第90回箱根駅伝に出場

城西大学男子駅伝部は、正月恒例の第90回東京箱根間往復大学駅伝競走（2014年1月2日・3日）に11年連続となる11回目の出場を果たしました。

第90回の記念大会となった今回は、2013年10月の予選会で見事本戦への出場権を獲得しての出場となりました。

大会当日には、坂戸市民の方々を中心に大勢の地元の方々がスタート地点の東京大手町で選手に大きな声援を送っていただきました。選手全員で力走し完走は果たしたものの、結果は誠に残念ながら19位に終わりました。



次回大会では、選手一人ひとりが今大会の悔しさを晴らすべく箱根駅伝のスタート練習に励み、再び予選会を突破して地域の皆様の期待にお応えできる活躍を目指します。

千葉・東金・鴨川地域の活性化

「第1回 川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会」を開催 

2014年1月11日・12日の2日間、城西国際大学の「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK(高円宮殿下記念スポーツパーク)」において「第1回 川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会」が開催され、山武郡市の14チーム約210名の選手が参加して熱戦を繰り広げました。

会場となった「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK」は、スポーツ振興や国際交流活動に尽力した高円宮殿下(2002年薨去)のご功績を称え、またそのご遺徳を次代に継承すべく命名されて2012年5月に完成した施設です。

本大会は、スポーツを通して次世代を担う青少年の健全な育成に寄与するとともに、高円宮殿下のご遺徳を継承していくためのサッカー大会として開催されたものです。

11日の開会式には、元サッカー日本代表監督で本学特任教授でもある岡田武史氏にお越しいただき、試合前の選手を激励していただきました。

大会は、初日の予選リーグの結果をもとに、2日目には順位リーグを行いました。初日から熱戦が繰り広げられ、特に2日目の順位リーグでは、最終試合での勝者が優勝というきわどい状況の中、全5試合を無失点で戦ったときがねFC(東金市)が見事、初優勝を飾りました。

また、12日の閉会式では、日本サッカー協会最高顧問の川淵三郎氏より優勝チームに木彫りの「川淵三郎杯」が直接手渡され、選手たちは皆大感激でした。川淵氏からは、「夢を持ったら、実現するために日頃からどう練習するかが大事。大きな夢を持ってしっかりと練習してほしい」との挨拶をいただきました。



川淵最高顧問より優勝チームにトロフィーを授与



子供たちの熱戦の様子

平成25年度千葉県メディアコンクールで優秀賞を受賞 

平成25年度千葉県メディアコンクールにおいて、城西国際大学メディア学部「山武郡市文化記録プロジェクト」が制作した「安井理民～総武本線開通の父～」が優秀賞に選ばれ、特別賞として<NHK千葉放送局長賞>も受賞しました。

2014年2月5日に行われた表彰式には制作した学生2名(大木香さん、井口潤一さん)が出席、表彰状とトロフィーを授与されました。

今回の作品は、総武本線の前身となった総武鉄道の開通に尽力し、千葉の発展に生涯を捧げた安井理民のミニドキュメントとして制作しました。安井理民は、安政6年成東下町(現山武市)に生まれ、明治22年に総武鉄道会社を設立しました。総武鉄道は明治30年に開通しますが、理民は鉄道の開通を見ることなく明治27年に病気のため35歳という若さで亡くなりました。

なおこの作品は、山武郡市教育委員会視聴覚教材センターの教材としてライブラリーに加えられ、今後教材として小・中学校をはじめ各方面に貸し出される予定です。



賞状とトロフィーを手にする大木香(左)さんと井口潤一(右)さん



作品の一場面

千葉・東金・鴨川地域の活性化

「小さな農」プロジェクトで古代米と大豆を栽培・収穫 

城西国際大学環境社会学部では、地域活性化のための取り組みとして「小さな農」プロジェクトを実施しています。このプロジェクトでは、大規模農業ではなく小規模で市民レベルでも取り組むことができ、地域社会の活性化や自然環境の保全に貢献できる農業を「小さな農」と定義し、それを実践的に研究しているものです。

プロジェクトでは、学内外の5箇所にあるJIU農園で作物や園芸植物を栽培しています。作物の栽培は種まきから管理、収穫までの一連の過程を手作業で行うことで、ひとつひとつの植物と向き合い、農業技術だけではなく、農や食を取り巻くさまざまな社会情勢や課題についても体験的に学んでいます。

2013年は、高円宮殿下記念スポーツパーク裏の「田んぼ」では古代米を、佐倉市DIC川村記念美術館に隣接する「木村農園」では大豆を栽培しました。古代米は、丈夫で肥料や農薬の使用量が少なく済むことから、環境に配慮した農法を実践することを目的に栽培しました。大豆は、小糸在来という千葉県の伝統品種を栽培することにより、失われつつある遺伝子の多様性や地域の独自性を活かした農作物の生産について学ぶことができました。

またプロジェクトでは、収穫した米や大豆を加工して特産品を開発したり、学部独自に収穫祭を実施するなど、地域活性化の方法の研究についても活動を展開しています。



各国からの留学生も交えての田植え



たわわに実った大豆(枝豆)

福祉総合学部・薬学部・看護学部による専門職連携教育プログラムを展開 

近年、医療の高度化・専門化・複雑化に伴う業務の増大によって医療現場の疲弊が指摘されるなど、医療の在り方が根本的に問われています。この問題に対する取り組みの一つとして、専門の異なる多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を発揮しながら業務を分担するとともに、互いに連携しあって患者や家族の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」が推進されています。

城西国際大学では、地域福祉・医療研究センターを中心に、医療系の福祉総合学部・薬学部・看護学部3学部による「専門職連携教育プログラム Interprofessional Education: IPE99」を展開しています。

自分の専攻外の専門職を目指す学生達と学びの場を共有し、共同作業を通じて福祉・看護・薬学の協同に基づく学びの機会を経験することで、これからの日本社会が直面する少子高齢化社会の中で地域を持続的に支え、地域住民の健康を支える人材の育成を目指した教育を行っています。

本教育プログラムは、福祉・薬学の連携教育から始まり、2年前に開学した看護学部とも連動して大きく成長しています。取り組み内容は年々深みを増しており、参加している学生や地域の方々からも大きな効用と今後の発展に大きな期待が寄せられています。



3学部の学生によるディスカッション

千葉・東金・鴨川地域の活性化

嶺岡林道さくら祭り、句碑除幕式 

創立者の水田三喜男先生が今から38年前に鴨川市の嶺岡林道で地元の皆様と共に植樹した500本の「水田桜」の保護・修復と林道の活性化を目的に、学校法人城西大学では2006年に「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」を立ち上げ、毎年新しく桜の植樹を行っています。水田桜は、現在では600本を超える桜並木に修復されています。

2013年は、4月6日に創立者生家およびその周辺にて桜植樹式および第7回さくら祭り&ウォーキング in 嶺岡中央林道を開催しました。

植樹式では、今年も一般社団法人霞会館より50本のソメイヨシノを寄贈頂き、水田理事長をはじめとする本学関係者や行政・近隣の方々と共に植樹をしました。同日、城西国際大学観光学部の主催によって行われた毎年恒例の「桜まつり&ウォーキング」では、近隣から参加された方々が新緑の林道を心地よい風を感じながら旧水田生家まで全長12キロのコースをウォーキングしました。植樹後に桜まつりがスタートし、生家において若月流日本舞踊の披露、安房高校吹奏楽部の演奏や曾呂小学生による獅子舞、餅つき、太巻き寿司実演、茶会、じゃんけん大会などさまざまな催し物を開催しました。

なお今年は、桜植樹式に合わせて、本学の発展に寄与いただいた学校法人城西大学長岡理事の名誉博士号授与を記念し、創立者生家近くに「あにおとと 隣の雛によばれけり」と刻まれた句碑を建立し、その除幕式も行われました。



ウォーキングを楽しむ子供達とサポートする本学の学生



長岡理事の句碑

振り込め詐欺防止DVDを制作 

城西国際大学メディア学部映像芸術コースでは、東京都調布市の総合防災安全課と共同で「振り込め詐欺」防止DVD『母と息子と言葉の物語』を制作しました。

調布市における平成25年の振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺被害は被害件数58件、被害額約2億7,000万円にも及びます。さらなる被害拡大の防止を図るため、調布市が企画してロケ場所等を提供し、以前本学が調布市内の商店街のCMを制作したつながらりから、本学の学生が撮影や編集などを担当したものです。

今回制作されたDVDはドラマ仕立ての内容となっており、振り込め詐欺の被害にあった母と息子が、詐欺の実態を知っていくことで家族の絆を再発見していくというストーリーです。詐欺の被害に最もあやすい女性高齢者とその息子の人間模様を焦点を当て、家族のコミュニケーションが一番の防犯、という視点で詐欺への対策を訴えています。撮影に先立ち、最新の振り込め詐欺の実態を警視庁で取材をし、ドラマの内容にも反映させています。

DVD完成後は、関係した自治会などや市民が集うイベントなどで上映をおこなった他、市内をはじめ全国に貸出しを広げており、今後も各地で上映が行われる予定です。



『母と息子と言葉の物語』のジャケット写真

千葉・東金・鴨川地域の活性化

「エコプロダクツ2013」に出展して学びの成果をアピール 

城西国際大学環境社会学部では、日頃の教育・研究活動の成果を発表するため、日本最大級の環境展示会『エコプロダクツ2013』に出展参加しました。

このイベントは、産業環境管理協会と日本経済新聞社の主催で2013年12月12日～14日の3日間、東京ビッグサイトで開催された環境見本市です。第15回目となる今回は『「今」つくる 地球の「未来」』というテーマで約750社、18万人が参加しました。展示会では、人間やさまざまな生物の命をはぐくむ地球を次世代につなげていくために、環境問題解決を目指したビジネス創出や技術開発、持続可能な社会や地域づくりに関して、新たな環境ビジネスや技術ノウハウ、ライフスタイルのヒント等が紹介されました。

本学のブース展示では、学部の目指している教育の方向性や主要プロジェクトに関する学びの成果等をポスターと生産物等の現物展示により紹介し、学部学生が参加者にプレゼンテーションを行いました。「循環型コミュニティの実践」では地域貢献賞を受賞した「エコステーション活動」を紹介し、「小さな農プロジェクト」ではコメ・ダイズの栽培から味噌への加工、販売までの「農の6次産業化モデルの実践」と「菜の花バイオディーゼル」の取り組みを紹介しました。また、都市緑化の効果評価では、シミュレーションによる「ヒートアイランド緩和効果」を発表しました。

学部から参加した学生たちは、学部の出展ブースで来場した他大学や企業の方と情報交換を行ったほか、教員の引率・解説によって企業やNPOなど多様な出展者の展示も見学して理解を深めました。



学生がブースで本学の取り組みを説明

「あさひ砂の彫刻展」のボランティアで大奮闘 

2013年7月20日、城西国際大学環境社会学部のエコユニット“Team Eco JIU”は、千葉県旭市の矢指ヶ浦海水浴場で開催された「あさひ砂の彫刻展」にボランティアとして参加しました。

「あさひ砂の彫刻展」は、2006年に初めて開催されて以来、旭市の夏の風物詩として定着しつつありましたが、2011年3月の東日本大震災で、開催会場がある旭市飯岡地区には高さ7メートル強の津波が到達したことにより大きな被害を受け、その年の開催はやむなく中止となりました。しかし、多くの方の努力により、2012年にこのイベントは再開され、地域に活力を生み出すイベントとして「ふるさとイベント大賞優秀賞」を、また震災被災地の復興に寄与していることなどが評価され「復興応援特別賞」が授与されました。

本学では2012年の再開時から、「活動ボランティア」として同展に参加をしていますが、環境社会学部は、2013年から地域との連携を深めつつ、より積極的な活動を開始しました。今回、学生たちは、会場で砂像制作体験ブースの設置と指導、さまざまな飲食物を提供するブースの運営補助等にあたりました。そして、これらの活動を通じて地域の方々との交流も深めることができ、貴重な体験となりました。

本学部でのボランティア活動の中心となるエコユニット“Team Eco JIU”は、環境に関する基本的な幅広い知識を身につけた“エコピプル”（環境社会検定合格者）を中心に結成され、積極的に環境活動を行う仲間の集まりです。エコキャンパスの実現や東日本大震災の復興支援など、環境社会学部の理念である“Act Locally”をモットーに活動しています。



砂像制作体験ブースで子供たちに制作指導

学会発表、受賞

日本薬剤学会 第28年会で杉林堅次教授が学会賞を受賞 

2013年5月23日～25日に名古屋で開催された公益社団法人日本薬剤学会の第28年會において、杉林堅次城西大学副学長、城西国際大学副学長が学会賞を受賞し、受賞講演を行いました。

日本薬剤学会は、薬剤学の進歩と普及をはかり科学、技術、文化の発展に寄与することを使命としています。学会賞は本會が与える賞の中で最も大きな賞です。わが国における製剤学、薬剤学、製剤技術、医療薬剤学の進歩発展に著しく貢献した研究者の功績を顕揚することを目的としており、毎年1名が選ばれます。

学会賞の受賞タイトルは「薬物の経皮吸収性の評価と制御」でした。杉林教授は、皮膚に塗ったり貼ったりした薬が、どのような経路をたどって皮膚中に浸透していくのかを明らかにするとともに、皮膚中や体内に入る薬物量を予測する方法論を確立しました。

なお杉林教授は、同学会の優秀論文賞もあわせて受賞しました。同賞は、「薬剤学」および「Journal of Drug Delivery Science & Technology: JDDST」の学会誌としての質の向上を図ることを目的に年1～2名に与えられるものであり、杉林教授が同賞を受賞するのは今回で4回目となります。今回の受賞論文は「Yucatan micropig皮膚を介したin vitro透過性からニコチンテープまたはリドカインテープをヒトに適用後の血中濃度の予測」で、大正製薬株式会社の武内博幸氏との共同研究です。



学会賞を受賞した杉林教授(中央)

第4回 日中経済経営フォーラムJOSAIを開催 

学校法人城西大学イノベーションセンターは、2013年11月12日に第4回日中経済経営フォーラムJOSAIを東京紀尾井町キャンパスにて開催し、一般財団法人日中経済協会 岡本 巖 理事長を講師に迎えて「日中経済関係の現状と将来展望」というテーマで講演いただきました。今回は、同協会による翌週からの中国への経済訪中団の訪問に先だって実施され、学内からの学生・教員に加えて、多くの一般参加者が参加されるイベントとなりました。

講演で、岡本氏は「世界経済に占める中国経済のプレゼンスの大きさ」「中国経済の成長制約要因の顕著化の背景」「その克服策としての経済発展方式の転換、経済構造改革の動向」「最近の日中の相互依存経済関係の深化の状況」「今後の日本経済再生と日中戦略的互惠関係の在り方」の5項目について、さまざまなデータを示しながら説明されました。また、岡本氏は「昨年以來、政治面で日中関係が悪化している状況ではあるが、日本にとってはアベノミクスの経済再生のためにも中国との経済交流の安定的拡大こそが日中戦略的互惠関係のコアであり、ビジネス交流促進による両国の関係の再構築は十分可能だ」と話されました。さらに、ビジネスの関係のみならず、文化交流、介護福祉や環境整備等の分野においても協力関係がさらに築ける可能性についても説明されました。

講演会終了後は質疑応答が行われ、若者間の交流の重要性等についても活発な議論や意見の交換が行われました。



講演する岡本氏

学会発表、受賞

中国 東北大学創立90周年記念式典に出席、水田理事長の特別講演会を開催

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2013年9月15日に中国の東北大学の創立90周年記念式典に出席しました。今回は、姉妹校としてのこれまでの両学の学術交流・人材育成の成果を受け、東北大学より招待されて出席したものです。

東北大学は、1923年の創立以來「自立奮闘、強い意志を持つ、知識と行動が一致する」建学精神のもと発展を続けてきました。すでに社会に25万人以上の卒業生を送り込み、中国内のみならずグローバルな人材育成や、多方面で大きな研究成果を上げてきました。

当日は雲一つない青空のもと、創立90周年を記念してさまざまな催しが行われましたが、午前中に本館前で行われた記念祝賀会では、水田理事長が各界の招待客らとともにステージ上の特別席にて出席しました。

午後は各学院にて学術フォーラムが実施されましたが、東北大学の特別招聘教授である水田理事長は、外国語学院内の教室にて「文学批評とは何か」というテーマで特別講演を行いました。全15回の実施が予定されている講演の第1回にあたる今回は、文学と文学批評の成立過程や文学批評の歴史、さまざまな文学批評理論等についての話があり、出席した約70名の日本語学部の教員や院生らは皆熱心に耳を傾けていました。

また、講演会終了後には、日本語学部で日本語を教えている城西国際大学の卒業生らと久々に再会し、授業や学生たちとの接し方などについてアドバイスをするとともに、中国での生活等に関して歓談しました。



特別講演のようす

神戸大学オックスフォード大学日本学プログラムシンポジウムにて講演

2013年10月15日に行われた神戸大学と英国オックスフォード大学の日本学プログラムシンポジウムにおいて、水田宗子理事長の講演会「記憶・沈黙・ジェンダー：新たな日本研究の構築に向けて」が開催されました。

このシンポジウムは、神戸大学人文学研究科の企画により、神戸大学とオックスフォード大学との教育提携によって来日した2期生を歓迎し、これからの日本研究をどのように進め、海外の方も含めた若い研究者をどのように育てていくのかが大きなテーマとなっており、それにふさわしい経歴を持つ水田理事長に講演の依頼があったものです。

水田理事長は、「記憶・沈黙・ジェンダー」をキーワードに、まず自分が外国人であること、女性であることを気付かされたアメリカでの体験を語り、日本文学では消えない記憶の沈黙を鎮魂という形で表現してきていること、鎮魂は他者の心への旅であり、他者の記憶を受け継ぐことであるのだと指摘しました。

最後に日本研究、日本研究者に望むこととして、国という狭い枠組みを超えた表現の研究は、まず日本を外から見る視点が必要であり、外国人の日本研究者との積極的な交流と学会や研究者自身の異文化体験、若い研究者の自由な発想を育てる教育など、21世紀の日本研究は「他者との遭遇」という表現の原点への視点を持つことが、新しい視野を切り開いていくであろうと述べました。



講演する水田理事長

産・学・官連携

サンミュージックと次世代のエンタテインメント人材育成で包括協定を締結 

学校法人城西大学と株式会社サンミュージックプロダクションは、2013年7月19日、次世代の映像・メディア・エンタテインメント人材育成に向けた「連携協力に関する包括協定」を締結し、本学の東京紀尾井町キャンパスにて調印式・記者会見を行いました。

城西国際大学が構築しているメディア関連の体系的な教育システムと、サンミュージックグループの持つ優れたエンタテインメント人材育成ノウハウを合わせて、映像、メディア、ダンス、アクティングなどわが国の文化コンテンツ産業を担う人材や、デジタル時代とグローバル時代における新しい文化コンテンツを創造できる人材を育成していくことになったものです。

今回の締結にもとづいて、8月より城西国際大学東京紀尾井町キャンパスにて、メディア学部映像芸術コースの中で次世代エンタテインメント人材育成のための「現代演芸講座」がスタートしました。

水田理事長は「エンタテインメント領域において世界で活躍できる人材をつくるという大きな夢に向け、新しい一歩を進めることができるとわくわくしています」と挨拶しました。また、相澤社長も「城西国際大学の持つ体系的な人材育成システムと、われわれのもつ最前線のノウハウをうまく合体させて、デジタル・グローバル時代に常に新しい文化コンテンツを創造できる人材の育成に貢献したい」と抱負を述べました。

なお、今回の包括協定の一環として、会見終了後に行われたメディア学部の授業「メディア概論」にて相澤社長と岡取締役がゲスト講演を行い、芸能プロダクションの役割と機能について話されました。受講した約200名の学生は、皆熱心に聴いていました。



調印後握手する水田理事長と相澤社長(左)

農林水産省のプロジェクトに参加して、坂戸市の小麦ブランド活動 

城西大学経済学部の末永ゼミでは、TPP(環太平洋連携協定)について学習するとともに、TPP対策の一環として実施されている農林水産省のプロジェクトに参加して、地元の小麦のブランド化に取り組んでいます。

このプロジェクトは、「坂戸市を小麦で元気にする都市農村交流協議会」が母体となり、農林水産省の支援を受けながらTPP対策として国産小麦のブランド化を図り、外国産の小麦に対抗できるような競争力をつけようというものです。対象となる国産小麦は、坂戸市や長野県を中心に栽培されている「ハナマンテン」という、グルテンを多く含む良質の小麦です。プロジェクトでは、このハナマンテンを使った「坂戸担々麺」を市内10店舗で先行販売し、その後「坂戸担々麺」とハナマンテンを全国的に売り出していく予定です。

経済学部の学生は、10店舗のうち4店舗を直接担当し、2013年12月から翌1月にかけて坂戸キャンパス新食堂や麵屋我龍、本家うめのやと共同して、「坂戸担々麺」の販売を行いました。学生たちは、10店舗に対する調査や、プロジェクト全体の広報も担当しています。また、2014年2月6日には、さいたまスーパーアリーナで開催された「農と食の展示・商談会2014/埼玉県農工商連携フェア」で、ハナマンテンを使ったインスタント・ラーメンやパンなどのPRを行いました。

さらに、このプロジェクトに参加している学生たちは、城西大学休耕地活用プロジェクトにも参加しており、坂戸キャンパスの隣にある休耕地を活用して、ハナマンテンを実際に栽培しています。



小麦の麦踏み



ラーメン店のポスターより

産・学・官連携

エグゼクティブ・プログラムを開催 

城西国際大学大学院では、国際アドミニストレーション研究科の開設を記念して、学内外から広く専門家を招き「エグゼクティブ・プログラム」を東京紀尾井町キャンパスで実施しています。

2013年5月には、第5回目として三井不動産株式会社の大室康一特別顧問に「日本のデベロッパーのグローバル化」をテーマに講演いただきました。

講演では、戦後の高度成長からバブル経済崩壊後までの歴史を振り返り、不動産事業が日本の経済にもたらした影響と貢献についてお話されました。さらには、近年の他企業との連携による海外都市開発事業への参画と事業のグローバル化について討議がなされました。



講演する大室特別顧問

また、2013年9月には、第6回目として東日本旅客鉄道株式会社の清野 智取締役会長による「JR東日本の考える『安全』と今後の技術革新」というタイトルの講演が行われました。

講演では、過去に起きた事故による教訓とそこから取られた安全対策を紹介し、国鉄時代からの長い歴史のなかで「究極の安全」を目指す取り組みの詳細が説明されました。また、地震・津波対策にも触れ、「構造物の強化」「列車の緊急停止」「脱線後の被害の極小化」という3つの柱への取り組みについて話されました。さらに今後の技術革新にともなう展開について、「踏切対策」「ホームドアの整備」「新幹線の更なる高速化」「蓄電池駆動電車システム」など、会場にいるすべての人が、その完成を心待ちにするお話を多数いただきました。

両講演とも、終了後の質疑応答には多くの質問や意見が出され、充実した講演会となりました。

「リゾートあわトレイン」で地元食材を活かしたお弁当を販売 

城西国際大学観光学部では、ホスピタリティサービス人材育成プロジェクトの一環として、JR東日本と鴨川市が共同で実施する期間限定のイベント列車「リゾートあわトレイン」(館山駅～安房鴨川駅)で、車内での学生手作り弁当の販売とドリンク販売協力を行っています。2013年は、イベント列車の運行するゴールデンウィークと夏休み、春休みの期間中に行いました。

このお弁当は、ホテル総料理長を経験された先生の指導のもとに、地産地消をコンセプトに学生たちが意見を出し合い、工夫を凝らして作ったものです。

食材は全て地元のものを使用しており、その一部は、観光学部の地域貢献と食を通じた人材育成プログラムに賛同して下さる地域の方々から格安で提供いただいたものです。また、季節感にも工夫をこらし、8月に販売したお弁当は、暑い夏にハーブの涼しい香りを添えた「さわやか弁当～季節のハーブ添え～」で爽やかさを演出しました。学生達は皆「おいしいものを皆さんに食べていただきたい」という気持ちで、日によって販売する場所を変更するなど試行錯誤や工夫をしたり、食材についてわかりやすい説明を加えたりしながら販売しました。その甲斐あって連日大盛況となり、学生たちにも大きな自信につながりました。

なお、このお弁当はイベント列車だけでなく、期日限定で安房キャンパス学生食堂での販売も行っており、学生たちにも好評を博しています。



手作り弁当を販売する学生たち

産・学・官連携

安倍総理夫妻主催の「ポーランド・アイルランドの夕べ」において、
本学に留学中のポーランドの学生がプレゼンテーション

2013年10月25日、総理大臣公邸で開催された、安倍内閣総理大臣夫妻の主催による「ポーランド・アイルランドの夕べ」において、本学に留学中のワルシャワ大学とポーランド日本情報工科大学の学生が招かれて、今後の両国の交流進展に向けたプレゼンテーションを行いました。

今回の招待は、同年6月の安倍総理のワルシャワ訪問に同行された総理夫人が、ポーランドの大学を往訪されたことがきっかけとなり、本学に在学するポーランドの学生たちに「10月の『ポーランド・アイルランドの夕べ』でポーランドの魅力について紹介するとともに、日本とポーランドがどうすればさらに密接な関係になれるのか、留学生の視点から提言・提案をしてほしい」という依頼をいただいたものです。

当日は、本学のポーランド留学生8名が、安倍総理ご夫妻をはじめ、来日中のヤヌシュ・ピエホチンスキ ポーランド副首相兼経済相、ポーランド、アイルランド両国の駐日大使ご夫妻、日本・ポーランド友好議員連盟および日本・アイルランド友好議員連盟の国会議員等両国関係者の前で、今後の交流の一層の進展に向けたプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションでは、留学生それぞれが日本への興味を持ったきっかけの説明や、バスを使った「移動文化センター」による相互文化交流推進の提言などを行い、両国関係者から大きな拍手をいただきました。



安倍首相を囲んで

チェコ語弁論大会を本学で開催

2013年5月25日、チェコ共和国大使館の主催による「第19回 チェコ語弁論大会」が本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールを会場として開催されました。

本大会は、現在大使館が改修中であることから、中期目標の中でチェコをはじめとする中欧地域の大学との教育交流を積極的に展開し、本年度よりチェコ語の授業もスタートした本学が会場を提供して行われたものです。

大会の開催にあたり、カテリーナ・フィアルコヴァー大使は、「開催に際して心のこもったお世話をいただいている、水田理事長をはじめ城西大学の皆様方に心より御礼申し上げます」と挨拶しました。ひき続いて水田宗子理事長が「チェコ語の弁論大会が本学で開催されるのはまことに光栄です。本学でチェコ語を学び始めた学生達が、来年のこの大会に出場することを大いに期待しています」と挨拶しました。

大会にはチェコ語を学ぶ男女10名が出場し、審査員による厳正な審査を経て、見事第1位には檜田ひかりさん(大学生)が選ばれ、授賞式ではフィアルコヴァー大使から賞状および副賞としてチェコの大学での1ヶ月間の留学の権利がプレゼントされました。また、今回特別に本学から「水田宗子理事長賞」が設けられ、大江智子さん(大学生)が見事受賞、水田理事長より賞状と記念品が贈られました。

なお、大会の最後には、この4月からチェコ語を学び始めた本学学生の代表3名が、ステージ上でチェコ語による挨拶と今後の抱負を披露しました。



出場者や審査員らによる記念撮影

産・学・官連携

本学にて「V4+日本 安全保障セミナー」および「V4+日本 学生会議」を開催

2014年2月4日、本学東京紀尾井町キャンパスにおいて「V4(ヴィシェグラード4)+日本 安全保障セミナー」(外務省、駐日V4各国大使館、本学共催)および翌2月5日に本学主催で「V4+日本 学生会議」が開催されました。

「V4+日本 安全保障セミナー」

外務省と現V4議長国である駐日ハンガリー大使館をはじめとする駐日V4各国大使館、そしてV4諸国との学術交流を進める本学との共催により、昨年を引き続いて本学にて「V4+日本安全保障セミナー」が開催されました。

セミナーは地下ホールで開催され、日本政府をはじめ、V4各国の大使や25カ国の大使館の外交官、本学関係者、有識者ら約170名が参加しました。

セミナーでは、各セッションにおいて我が国及びV4諸国から参加した実務担当者及び専門家が、東アジアと中欧の安全保障環境が相互に関連しているとの共通認識に基づき、海洋安全保障、サイバー、ミサイル防衛などについて意見交換を行いました。

「V4+日本 学生会議」

翌2月5日には、紀尾井町キャンパス3号棟5F国際会議場にて本学主催による「V4+日本 学生会議」が開催されました。

本会議は、前日のセミナーに連動して本学により企画されたもので、「V4+日本」交流年の記念行事の一つとして外務省から認定を受けたものです。V4各国の相互理解および日本との連携強化を図ることを目的に、本学および本学と学術交流協定を締結しているV4の学生・若手研究者らがパネリストとして出席して行われました。また、本会議はV4の芸術、学術、教育、観光分野等での協力推進を目的として設立されたヴィシェグラード基金より、日本では初めて助成を受けて開催されたものです。

会議は、水田宗子理事長、セルダヘイ・イシュトバーン駐日ハンガリー大使、ミハイル・コットマン駐日スロバキア大使の挨拶に続き、スロバキア共和国外務省のジョゼフ・ポラコヴィツチ副局長が、V4の現在までの歩みに関する基調講演を行いました。その後、両国の相互理解を深める方法や、通貨ユーロとV4各国の取り組みなどに関する4つのセッションが実施され、テーマに沿ってパネリストがそれぞれの視点からプレゼンテーションを行った後、活発なディスカッションや質疑応答が展開されました。



V4+日本 安全保障セミナーのようす



V4+日本 学生会議のようす



パネリスト等による記念写真



レセプションでの交流のようす

中国との交流

大連理工大学と瀋陽師範大学より名誉教授を授与

学校法人城西大学水田宗子理事長は、大連理工大学（2013年5月）および瀋陽師範大学（2013年9月）より名誉教授を授与されました。

本学と大連理工大学は2007年5月に学術交流協定書を締結して以降、日中連携博士課程の開設をはじめ、学生のインターンシップ・共同研究の実施など学生・教員の交流を積極的に展開してきました。今回の名誉教授授与は、これらの一連の活動を通じた両校の交流に対する水田理事長の貢献・実績が高く評価されたもので、授与式では、大連理工大学の張徳祥党委書記より水田理事長へ名誉教授証書とバッジが贈られました。その後、両大学関係者や学生達を前に「人格形成と多文化共生教育研究」と題した授与記念講演会を行いました。



張徳祥党委書記(左)から名誉教授を授与される水田理事長

なお、同大学の名誉教授称号は、世界のさまざまな分野の優れた研究者に授与されており、日本では、ノーベル賞を受賞した野依良治先生、鈴木章先生、根岸英一先生らが授与されています。

また、本学と瀋陽師範大学は2011年10月に学術交流を締結し、以降さまざまなかたちで学生や教員の交流を積極的に検討してきたほか、本学東京紀尾井町キャンパス3号棟の化石ギャラリーにおいて、同大学の古生物博物館の協力により制作された肉食恐竜の全身骨格の学術標本を設置し、古生物博物館 孫 革館長は本学水田記念博物館の顧問にも就任されています。

今回の名誉教授授与は、これらの活動を通じた両大学の交流に対する水田理事長の学術貢献・実績が高く評価されたもので、瀋陽師範大学で行われた授与式では、林 群学長より名誉教授証書およびバッジが贈られました。その後、今回の授与を記念して「人格形成と多文化共生教育・研究」と題した講演会が開催されました。

東北大学と共同学部設立で合意

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学瀋陽訪問団一行は、2013年9月14日に中国・東北大学にて丁烈雲学長らと会見し、両学による共同学部の設立に関する覚書に調印しました。

日本の大学と海外の大学による共同学部設立は過去にもほとんど例のない画期的なことであり、国際学術交流の新たな展開として今後の展開が期待されます。

今回の覚書は、東北大学キャンパスに両学による共同学部（共同教育機構）「東北大学 国際文化創造学部（仮称）」を設置して、両学で工学、人文学、メディア学を核とする教育研究を推進することにより、グローバル社会で活躍できる人材を共同で育成することに合意したものです。



調印式を終えて

会見では、丁 烈雲 学長をはじめ、姜 茂舜 副学長、呉 勁松 学長補佐、于 福暁 国際合作及び交流処処長、王 秋菊 外国語学院副院長らの出席のもと、本学訪問団と共同学部の設立等に関して議論しました。水田理事長は「今年で90周年を迎える、伝統ある東北大学と共同学部の設立に合意でき、大変光栄です。共同学部では、両大学で力を合わせて言語・文化・メディアをコアに、クリエイティブなグローバル人材育成に取り組んでいきたい」と挨拶しました。丁学長も「自然・理工分野に強い東北大学と、人文分野に強い城西大学の互いの長所を活かした共同学部を設置することにより、クリエイティブ産業において先端的なテクノロジーを活用することのできる人材を育成したい」と述べました。

中国との交流

大連市外事弁公室主任・本学客員教授の于 涛先生が講演

2013年10月30日、大連市外事弁公室主任で、本学客員教授でもある于 涛先生が本学東京紀尾井町キャンパスに來学され、講演されました。

于先生は、長年にわたり大連市の経済、文化、福祉、医療、教育など幅広い分野の仕事に携わってこられ、大連と城西大学・城西国際大学との交流、大連と日本の文化交流に多大な貢献をされています。また、2012年には、両大学からメンバーが参加して行われた「中国大連インターンシップ研修団」、城西大連・東北学友会、若手人材育成プログラム「JOSAIグローバル女性人材育成プログラム（JEWEL）」の開催・運営にあたって多大な協力と支援をいただきました。



講演する于先生

紀尾井町キャンパス3号棟にて行われた講演会では、「大連市の現状と今後の発展」というテーマのもと、大連市の経済産業の概況と今後について、最新のデータをもとに説明されました。次に、大連市の急速な高齢化と介護の現状を踏まえ、福祉政策を早急に充実させる必要があること、そして最後に、大連市における女性の社会的地位や活動状況と、ご自身の豊富な体験にもとづいたキャリア向上のための働き方などについて、集まった大勢の学生たちや、水田理事長をはじめとする本学教員らを前に流暢な日本語で講演されました。

また、講演会終了後には特別講義記念レセプションが行われ、中国からの留学生を含む本学学生たちが于先生を囲んで交流を深めました。

第3回 城西大連・東北学友会懇親会を開催

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学大連訪問団一行は、2013年5月26日、大連市内のホテルで第3回目となる城西大連・東北学友会懇親会を開催しました。

今年の懇親会には、城西大学・城西国際大学で学んだ日中連携大学院の卒業生・在学生をはじめ、JMBAスカラシップや共同教育プログラムの卒業生、「向坊隆記念」村井隆奨学金、「水田三喜男記念」水田宗子奨学金の受賞生、私費留学の卒業生等に加え、大連外国語大学、大連理工大学、大連海事大学、中国東北大学からの来賓の先生方など、総勢120名近くの方々が集まりました。本会は、回を追うごとに参加者も増えて内容も充実度を増してきています。



学友会からの寄付金を手に、学友会メンバーらとの記念撮影

会の冒頭の挨拶で水田宗子理事長は、卒業生との再会を喜ぶとともに「起業されたり、マスコミに勤められる方なども含めて、大企業の幹部として活躍している皆様の頼もしい姿を見ることができて、大変嬉しく思います。皆様の母校、城西大学もまもなく創立50周年を迎えますので、ぜひ後輩たちへのサポートをよろしくお願いします。」と述べました。その後、大連学友会一同より水田理事長に創立50周年に向けた寄付金が贈呈されました。

また、大連市中日友好学友会会長も務める大連理工大学の杜鳳剛先生や、大連外国語大学の陳岩先生などからご挨拶をいただきました。

今後も学友会のみなさんの力を集結し、学友のつながりを広げ親睦を深めるとともに、日中両国の国際交流の促進や経済・文化の発展に一層寄与していくことが期待されます。

ASEANとの交流

第4回アジア・太平洋薬学教育ワークショップを開催

2013年11月25・26日、城西大学東京紀尾井町キャンパスで「第4回アジア・太平洋薬学教育ワークショップ」が開催されました。

このワークショップは、城西大学の姉妹校であるマレーシアのマネジメント&サイエンス大学をオーガナイザーとして、これまでマレーシアとインドネシアで開催してきました。今回は、城西大学・城西国際大学の杉林堅次副学長を大会長として初めて日本で開催され、日本やマレーシア、インドネシアをはじめとしたASEAN各国およびアメリカ、カナダ、韓国、中国から約80名の薬学教育、薬業界の専門家および学生が参加しました。



ワークショップのようす

ワークショップでは、「薬学教育の協調」をメインテーマに、大学院教育や学習評価法、臨床実習、卒業研究に関する各国の薬学教育をどのようにハーモナイズしていくかなどの4つのテーマについての講演が行われた後、各テーマのディスカッションを行いました。

ディスカッションや意見交換を通して、文化や歴史、民族的背景により各国が異なった薬学教育制度を築き上げていることを知る良い機会となったと同時に、それぞれの薬学教育制度の特徴を尊重しながらも一定の世界基準を設定し、グローバル基準を満たす人材を育てていくことで、医療・医薬品だけでなく医薬部外品・化粧品・医療機器にまで幅広く関わっていきけるような薬学部卒業生、薬剤師を世に送り出していくことができるという認識を参加者全員で共有しました。

国際薬学ウィーク2013を開催

城西国際大学薬学部では、薬学を通して世界を考える国際教育の一環として、2013年11月25日から29日にわたって「国際薬学ウィーク2013」を開催し、薬学に関連するさまざまなワークショップや講演、セミナー等を行いました。

11月25・26日に城西大学と城西国際大学薬学部が共同開催した第4回アジア・太平洋薬学教育ワークショップには、アジア環太平洋地域における薬科大学の教職員が集まり、薬学教育グローバル化に対する調和と同調性を目的に、より優れた薬学教育研究手法の共有化を目指して議論を重ねました。



エルニー・コロパーキング博士の講演

そして、そのワークショップでも特別講演されたマレーシアのマネジメント&サイエンス大学薬学部のエルニー・コロパーキング博士が11月27日に本学東金キャンパスに来学され、「マレーシアでの臨床薬学教育の現状とこれからの展望」と題した特別講演を行っていただきました。

また、11月27日には、本学薬学部薬理学研究室助手の松本健次郎博士が日本薬学会関東支部奨励賞受賞講演を行い、「炎症性腸疾患モデル動物における温度感受性受容体TRPV1とセロトニンシグナリングの変化」についてお話いただきました。

さらに、11月28日には、第10回国際教育セミナーが開催され、中外Oncology学術振興会議常務理事の有沢幹雄博士による「グローバル企業で活躍するための英語術」の講演なども行われました。

これらへの参加を通じて、学生たちは、グローバルな視野で薬学に触れ、学び、日本で薬学を志す自分たちに今何が出来るのかを考える貴重な機会を得ることができました。

ASEANとの交流

マレーシア マネジメント&サイエンス大学 シュクリ学長に名誉博士記を授与

城西国際大学は、2013年11月26日、東京紀尾井町キャンパスにて、本学の姉妹校であるマレーシアのマネジメント&サイエンス大学(MSU)のダト・ウィラ・ドクター・モハメッド・シュクリ・アブ・ヤジヤド学長に名誉博士記を授与しました。



シュクリ学長は、2001年に設立されたMSUの前身であるKUTPMおよびPTPLカレッジグループを創立して以来、両教育機関の学長として大学の拡充発展に力を尽くされ、マレーシアの高等教育の発展に強いリーダーシップを発揮されています。

本学とMSUは、2010年1月に学術交流協定を締結して以降、薬学部を中心に短期交換プログラム、セメスター交換プログラムを実施し学術交流を積極的に進めてきました。そして2013年11月25・26日には、大学院教育や学習評価法、臨床実習、卒業研究に関する各国の薬学教育をどのようにハーモナイズしていくかをテーマとして「第4回アジア太平洋薬学教育ワークショップ」も日本で初めて共同開催しました。これら、シュクリ学長のマレーシアの高等教育における数多くの功績や本学との交流における多大な貢献が評価されて、今回の名誉博士記授与になったものです。

地下ホールで行われた授与式では、水田宗子理事長と柳澤伯夫 城西国際大学学長からシュクリ学長に名誉博士記とメダル、トロフィーが授与されました。

なお、授与式に続いて、今回の授与を記念して「Globalisation & Its Impact on Higher Education」をテーマにシュクリ学長の講演会も行われました。

ASEANフォーラムJOSAIを実施

2013年は日・ASEAN友好協力40周年にあたりますが、本学も政府の記念事業に登録して、イノベーションセンターの主催による「ASEANフォーラムJOSAI」と銘打った計3回の記念講演会を紀尾井町キャンパスで開催しました。



講演するAli Khatibi教授

第1回目のフォーラムは、3月12日に、マレーシア投資開発庁(MIDA)東京事務所Mohamad Hashim所長およびマレーシア・マネジメント&サイエンス大学(MSU)Ali Khatibi教授を迎え、「新しいサプライチェーンマネジメントへのマレーシアの挑戦」について講演いただきました。講演では、MIDAの役割を中心にしたマレーシアの経済、投資政策と機会、地域市場の潜在力等についてのお話に加え、事例を通じたマレーシアのさまざまな種類のサプライチェーンマネジメントが紹介されました。

両講演とその後の質疑応答には、城西大学・城西国際大学の大学院生に加えて一般企業からの参加者も合わせた約70名の熱気が反映され、大盛況の講演会となりました。

また、第2回は5月7日、泰日経済技術振興協会のプラユーン・シオワッターナ会長による「日タイ協力の成功例と今後のASEAN工業発展への貢献」の講演、そして第3回は8月24日にASEANの前事務総長スリン・ピッスワン氏による「発展する東アジアにおける日本と変化する世界情勢」の講演会を行いました。

いずれの講演も、ダイナミックに躍動するASEANの産業界、ビジネス界を代表する方達による説得力に満ちたお話しで、参加者たちにとっても今後のASEANとの交流を考える上で大いに刺激になるものでした。

広がる国際交流

香港城市大学Way Kuo学長が来学・講演 

2013年4月30日、香港城市大学のWay Kuo(郭位)学長が本学の東京紀尾井町キャンパスに来学され、講演を行なっていました。

今回の来学は、2012年10月に水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学訪問団が同大学を訪問し、Kuo学長らと学術交流協定を締結したことを受けて実現したものです。

Kuo学長、C.T.Liu(劉錦川)名誉教授らは3号棟国際会議室にて水田理事長をはじめとする本学執行部メンバーらと会見した後、地下ホールにてKuo学長に「Reliability and Survivability



講演するKuo学長

~Nuclear Energy and the Future of Energy~(信頼性とサバイバビリティ~原子力とエネルギーの未来~)」と題した講演を行なっていました。Kuo学長はエレクトロニクスシステムにおける設計および信頼性モデルリング、原子力エネルギーの研究者として世界的に有名です。今回の講演でも、東日本大震災以降あらためて原子力発電の是非が議論されている中、原子力や自然エネルギーをはじめとする各種のエネルギーに対するさまざまな科学的観点から見た評価の必要性について、わかりやすく例をあげながらお話いただきました。

また、本学と香港城市大学とのプロジェクトとして、Kuo学長が執筆された東日本大震災の福島第一原発事故に関する著作の日本語版を本学にて2014年春に発行する計画です。

なお、Kuo学長一行は、翌日は城西国際大学に来学され、グリーンマテリアル研究所や、国内外の学生たちが英語でコミュニケーションする場であるイングリッシュフロア、情報科学研究センターなどを見学しました。

日韓シンポジウム「グローバル化の中の『韓流』『日流』」を開催 

2013年5月18日、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所、韓国文化研究センター主催、城西国際大学国際人文学部の共催により、東京紀尾井町キャンパス地下ホールにて日韓シンポジウム「グローバル化の中の『韓流』『日流』」が開催されました。

韓流ブームから10年、韓流ブームは日本と韓国に何をもたらしたのか、韓国と日本のドラマの中で女性たちはどのように表現されているのか等について両国の研究者が意見を交わしました。

水田宗子理事長の挨拶の後、南仁煥 東西大学林権澤映画研究所所長が「女性の鏡の中へー韓国フェミニズム映画の現在一」と題した基調講演を行いました。



パネリストの発表(右から鄭氏、川村氏、宇佐美氏、梁氏)

シンポジウムでは、パネリストとして鄭智泳准教授(梨花女子大学)が「韓国近代社会における『李朝女性』イメージとジェンダー秩序」について、川村湊教授(法政大学)が「『韓流』源流と未来」について、宇佐美毅教授(中央大学)が「テレビドラマの韓日文化論」について、梁銀京教授(忠南大学)が「韓流と日流を通じたアジア文化共同体」についてそれぞれ発表を行った後、パネルディスカッションが行われました。

会場には、韓流ファンをはじめ、韓国語を勉強している学生や韓国やジェンダーに関心のある研究者等、学内外から200名近くが集まり、政治的には混迷の続く日韓関係においても大衆文化のレベルにおいては着実にその交流が深まっており、東アジアにおける新しい文化共同体を構築できる可能性を確認してシンポジウムは終了しました。

広がる国際交流

国際教育交流ネットワークの拡充 

学校法人城西大学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界のさまざまな大学と積極的に国際交流を深めています。

2013年度は、中欧やASEAN諸国・中国等を中心に、新たに海外の23大学や機関と学術交流協定・連携協力協定を締結しました。今後、これらの大学・機関との教育および研究の諸分野における学術交流や、教職員および学生の交流が活発に展開されることが大いに期待されます。

なお、本学の海外の学術交流協定校は合計で120校になり、国際教育交流ネットワークがさらに充実しました。

〈2013年度の新たな学術交流協定締結校一覧〉

- ・ 4月 ランシット大学: タイ (Rangsit University)
- ・ 5月 泰日工業大学: タイ (Thai-Nichi Institute of Technology)
- ・ 6月 東華理工大学: 中国
ワルシャワ大学: ポーランド (University of Warsaw)
- ・ 7月 ペトラ・クリスチャン大学: インドネシア (Petra Christian University)
デブレツェン大学: ハンガリー (University of Debrecen)
大連工業大学芸術与信息工程学院: 中国
ワルシャワ経済大学: ポーランド (Warsaw School of Economics)
- ・ 8月 浙江工業大学: 中国
マサリク大学: チェコ (Masaryk University)
カレル大学: チェコ (Charles University in Prague)
- ・ 9月 東北師範大学人文学院: 中国
吉林工程技术師範学院: 中国
渤海大学: 中国
- ・ 10月 マレーシア・プルリス大学: マレーシア (Universiti Malaysia Perlis)
スラバヤ大学: インドネシア (Universitas Surabaya)
サイアム大学: タイ (Siam University)
タクシン大学: タイ (Thaksin University)
ミャンマー元日本留学生協会: ミャンマー (Myanmar Association of Japan Alumni)
- ・ 11月 寧夏理学院: 中国
- ・ 12月 浙江農林大学: 中国
ニコラス・ロメリス大学: リトアニア (Mykolas Romeris University)
プレシヨフ大学: スロバキア (University of Presov in Presov)



ランシット大学



ワルシャワ大学



渤海大学



プレシヨフ大学

国際人材の育成

水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ奨学生表彰式

2013年9月30日、平成25年度水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ奨学生表彰式が東京紀尾井町キャンパスで行われました。

この奨学金は、2009年にハンガリー共和国のショーヨム・ラースロー大統領閣下(当時)が本学を表敬訪問されたことを記念して「水田宗子ハンガリー奨学金」として設立されたものです。4年目を迎えた本奨学金は、新たにポーランドとチェコからの留学生を対象に加え、城西大学・城西国際大学の3ヶ国からの奨学生30名の表彰式として行われました。

表彰式では、水田理事長からの表彰状授与に続き、各国の学生親善大使が2名ずつ任命されました。その後、各国の奨学生を代表した3名が授与の謝辞および決意表明を行い、本奨学金により安心して勉学に励めることに対する水田理事長および関係者への御礼とともに、日本に留学する1年間で日本のさまざまな伝統や日本の経済・社会などを学び、日本と3カ国の相互理解を一層深めていくことへの力強い決意を述べました。

なお、ポーランドの奨学生13名は、今回の表彰式に先立つ9月26日にポーランド大使館にてツィリル・コザチェフスキ駐日大使を表敬訪問し、大使から「今回の城西大学への留学チャン



親善大使の6人と水田理事長、森本学長、石田副学長



ポーランド大使とポーランドからの留学生、本学関係者を最大限に活かして日本でさまざまなことを学び、体験し、それらを通じて今後のポーランドと日本の架け橋となる人材に育ててください」と励ましの言葉を贈られました。

グローバル人材育成に向け、大学院に新しい研究科と専攻を開設

城西国際大学では、21世紀型のグローバル人材育成に向けて、都心で交通の便利な紀尾井町キャンパスに国際アドミニストレーション研究科、人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻を2013年4月より開設しました。

国際アドミニストレーション研究科は、国際的な専門と教養を持ち、グローバル化に対応できる高度の専門的職業人育成を目的に設立されたもので、政策研究、国際研究、国際企業研究、観光(ホスピタリティ)研究、国際地域研究などの5専門研究分野を設けています。

また、人文科学研究科グローバルコミュニケーション専攻は、異文化理解能力をグローバル人材にとって基盤となる力を身につけることを目的に、日本語教育研究分野、翻訳・通訳研究分野、TESOL研究分野を設置しました。そして、文化の多様性と交流の重要性を十分に理解し、専門知識と二つ以上の言語の運用能力を持つことによって、国際社会に貢献できる優れた人材を育成します。



都心のキャンパスでグローバル人材育成

国際人材の育成

天津外国語大学 修剛学長の講演会を開催

城西国際大学は、2014年2月14日に東京紀尾井町キャンパス1号棟地下ホールにて、天津外国語大学学長であり、城西国際大学名誉博士でもある修剛先生の Executive Program 講演会を開催しました。

修剛学長は、中国における日本語教育の第一人者として知られ、中国全土の日本語教育界の中心的柱となってお活躍されています。1999年に天津外国語学院学長に就任、同学院の拡充発展に尽力し、2010年には、同学院を総合大学へと格上げするという困難な事業を成し遂げられました。また、中国日本語教育研究会名誉会長、中国翻訳協会副会長など多くの要職も兼務されています。そして、これまでのご活躍と交流への貢献を称えて、同年9月城西国際大学より修学長に名誉博士記が授与されました。

なお、本学と天津外国語大学とは、2007年10月に学術交流協定を締結して以降、毎年多くの天津外国語大学の学生が本学に留学するなど、国際交流が進んでいます。

講演会では、水田宗子理事長の冒頭の挨拶に続いて修学長が「国民目線の中日関係—異文化コミュニケーションを目指して—」というタイトルでご講演をされ、日本と中国の関係が難しい現状において、日中両国のさまざまな違いを認め合うことをベースに、異文化コミュニケーションの重要性と国民目線での良好な日中関係構築の必要性等についてお話いただきました。



講演される修学長

留学生との交流の場「城西インターナショナルハウス」がオープン

城西大学は、留学生らと本学学生の交流の場ともなる寮として「城西インターナショナルハウス」を2014年1月にオープンしました。

このハウスは、キャンパスのほど近くにあり、故渡辺好章元副学長の私財提供によって作られた野球部学生寮を大幅に改修して完成したものです。海外からの留学生だけでなく日本人学生も生活を共にし、その中からお互いに異文化理解やコミュニケーションを深めていくことを目的としています。

1月23日に行われたオープニングセレモニーには、水田宗子理事長をはじめとする大学関係者や地元の自治会長らに加え、入居予定の留学生と日本人学生等が参加しました。

ハウスは2階建てで16室を有し、キッチンラウンジやランドリールームなども備えています。

このハウスの完成により、本学の留学生と日本人学生との交流がより盛んになり、学内にいながらの異文化体験もますます活発になることが期待されます。



インターナショナルハウス外観



入居する留学生らと本学関係者

子どもたちとともに

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を開催 

2013年9月29日、城西大学薬学部において「平成25年度ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」が実施され、首都圏の高校生約20名と保護者の方々が講義と実習を体験しました。

本プログラムは、独立行政法人日本学術振興会の「研究成果に関する社会還元・普及事業」の一つとして、本学が本年度委託を受けて実施したもので、最先端の科学研究費補助金(科研費)による研究成果を、小学校高学年生や中・高校生の皆さんが“直に見る、聞く、ふれる”機会を提供することで、科学の面白さを感じてもらうことを目的に開催されたものです。

午前中は、「麻酔と麻酔薬とは」というテーマで荻原 政彦 教授が講義を行い、麻酔薬の歴史から現在使用されている最先端の麻酔薬の使用法までを分かりやすく説明しました。午後には大実習室で体験実験が行われ、教員の指導のもと、午前中の講義で勉強した全身麻酔薬や中枢抑制薬をマウスに投与し、その効果を実際に観察しました。また、麻酔薬と中枢抑制薬の薬物相互作用について、データをとりながら学習しました。生徒の皆さんが大変熱心に実験に取り組んでいる姿が印象的でした。

今回の講義並びに体験実習が、参加された生徒の皆さんの科学への知的興味を刺激する良い機会となり、それによって今後の学校生活や進路決定に役立つ「ひらめき」を得ただけであれば幸いです。



午前中の麻酔に関する講義



午後の麻酔の体験実験

薬学部生による薬物乱用防止教室を開催 

城西国際大学薬学部では、東金市教育委員会や東金市立小学校校長会、山武郡市薬剤師会の協力を得て、「薬学特別演習」の一環として薬学部6年生の学生7名が、東金市・山武市の小学校6年生や中学校1年生約250名を対象とした「薬物乱用防止教室」を2013年7月上旬にそれぞれの学校を訪問して開催しました。

開催にあたっては、小・中学生が理解できる資料を作成し、喫煙と飲酒が自分達の成長にどれほど悪い影響を与えるか、また覚醒剤などの薬物は絶対使ってはならないことを分かりやすく伝えるために、練習を繰り返して本番に臨みました。

学生達は、小学生を相手に話す経験が殆どなかったため、最初はかなり戸惑い緊張していましたが徐々に子どもたちとも打ち解けて、練習の成果を発揮してわかり易く説明をすることができました。子どもたちもクイズに対して積極的に手を挙げて回答し、一体感のある充実した教室となりました。

最後に行なった確認テストでは、ほとんどの子が満点をとり、覚醒剤による「フラッシュバック」と言う難しい言葉も覚えてくれました。将来のある子どもたちに、覚醒剤などの薬物の怖さを伝えることができた有意義な教室となりました。



薬物乱用防止教室のもよう

子どもたちとともに

第3回全国高等学校「絵本コンテスト」開催 

2014年2月22日、城西国際大学福祉総合学部は、紀尾井町キャンパスにて第3回空とぶくじら大賞 全国高等学校「絵本コンテスト」を開催しました。

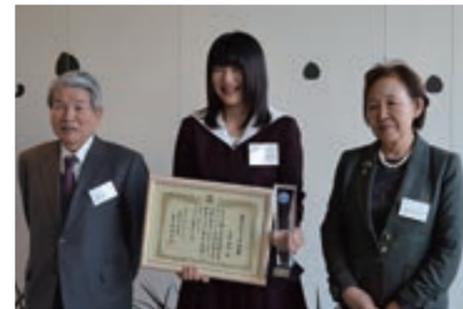
このコンテストは、全国の高校生を対象に絵本の新たな可能性を拓き、絵本の素晴らしさを伝えることを目的に実施されているもので、今年で3回目となりました。絵本は、子どものみならず高齢者や障がいをもった子ども・大人などさまざまな人々に力や癒しを与えるものです。

学外審査委員に作家のアーサー・ビナード氏を迎え、磯部学部長ら学内審査員とで国内外54の応募作の厳正な審査が行われた結果、大賞1作品、その他5作品が決定し表彰されました。栄えある空とぶくじら大賞は、大塚莉沙さん(共愛学園高等学校:群馬県)の「おとうと」が受賞しました。この作品は一人っ子の男の子が犬を「おとうと」として迎え入れる心温まる物語で、一人っ子の寂しさや「おとうと」ができた喜びが表情豊かに表現されています。

アーサー・ビナード氏からは、ビデオ出演によるコメントで「今回も素晴らしい作品が多く、あらためて絵本の幅広さと可能性の大きさを再認識しました。特に大賞と優秀賞の3作品は、各々独自の工夫で個性に溢れる作品でした」と総評を述べられました。

今回の大賞作品は絵本として印刷製本される計画で、さまざまな子どもたちへの読み聞かせの場面で活用されることでしょう。

- ・空とぶくじら大賞 1点 「おとうと」 大塚莉沙さん(共愛学園高等学校)
- ・優 秀 賞 2点 「シーラカンス」 石居沙良さん(東京都立工芸高等学校)
- 「みずのきもち」 佐藤歩作さん(神奈川県立上矢部高等学校)



大賞を受賞した大塚さんと水田理事長、柳澤学長



大賞「おとうと」

「めざせ鬼ごっこマスター」実施 

城西国際大学では、2013年8月27、29日の2日間、近隣自治体教育委員会の後援により、子どもにかかわる専門職の方々を対象とした夏季研修会「めざせ鬼ごっこマスター」を東金キャンパスで開催しました。主として千葉県内の保育所、幼稚園の先生方ら約20名が参加し、一般社団法人鬼ごっこ協会の会長で「鬼ごっこ博士」と、本学の羽崎泰男教授のもとでさまざまな鬼ごっこを学びました。

鬼ごっこは、日本でも平安時代から親しまれているほか、世界中でさまざまな形態で行われておりルールも簡単です。親子でも手軽に楽しめ、子どもの空間認知能力を高めるには最適な遊びと言われて



さまざまな鬼ごっこを体験

います。しかし、近年はTVゲームや携帯ゲーム等の影響もあり、子どもが鬼ごっこなどで遊ぶ機会が減ってきており、その結果空間認知能力の未発達によるスポーツや遊戯中の衝突事故が危惧されています。

2日間の講義では、鬼ごっこの効果やさまざまな楽しみ方を体験的に習得してもらいました。参加された方からは、「幼稚園で子供同士がぶつかることが多い。すぐにも学んだことを自分たちの現場で生かし、子どもたち楽しく遊びながら空間認知能力を身につけてもらいたい」という声が多く寄せられました。

子どもたちとともに

吉増剛造賞 第5回高校生小論文コンテスト 

高校生に、国際的な視野で世界を考える契機にしてほしいという意図から始まった城西国際大学主催「吉増剛造賞 高校生小論文コンテスト」は、2013年に第5回を迎えました。今回のテーマは「10年後の世界と私」。グローバル社会の10年後について、具体的な予測と希望を述べ、そのなかで活躍する自分の将来像を描くことを課題としました。

国内外から604編の応募があり、吉増剛造賞ほか各賞が選考され、11月3日に表彰式が行われました。式では、水田宗子理事長と柳澤伯夫学長からお祝いの言葉、吉増剛造教授から講評をいただきました。受賞者たちには、緊張しながらも笑顔が見られました。また、式場では中国と電話をつなぎ、国際部門賞受賞者にも喜びを語ってもらいました。受賞者代表のスピーチに続いて、吉増教授によるミニ・レクチャーが行われました。



吉増剛造賞を受賞した三島智恵美さん(中)

第13回「水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」および「水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」を開催 

城西国際大学東金キャンパスにおいて、いずれも第13回を迎えた「水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」(2013年12月26日)「水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」(2014年2月2日)を開催しました。

両大会とも、スポーツを通して学校法人城西大学の創立者である故水田三喜男先生が志した文武両道の精神を受け継ぎ、心身の優れた人材育成を目指して毎年開催されています。全国から強豪校が集まる大会として知られ、本年もハイレベルな激戦・熱戦が繰り広げられました。

柔道大会では、男子の部は、白鷗大学足利高等学校が6大会ぶり3回目の優勝となり、女子の部では、東大阪大学敬愛高等学校が2大会連続の優勝となりました。また、剣道大会では、男子の部は、市立習志野高等学校が見事初優勝を果たし、女子の部では、阿蘇中央高等学校が第9回大会以来2度目の優勝を飾りました。



柔道大会の熱戦



剣道大会の熱戦

「第1回水田杯中学校野球大会」開催 

城西国際大学は、2014年3月1日・9日に鴨川市営球場などで、九十九里や南房総エリアから11チームが参加した「第1回水田杯中学校野球大会」を開催しました。

本大会は、中学校教育の一環としてスポーツ交流を広げるとともに、鴨川市や近隣地域の皆様方と交流を深めることで地域活性化に寄与することを目的として今年から始まったものです。また本大会は、観光学部軟式野球部河上國男監督を中心として部員と観光学部生が企画・運営に携わっており、日頃からツーリズムを学ぶ学生にとっても、おもてなしの実践の場となりました。開会式では、大会会長の石毛宏典客員教授(元西武ライオンズ選手)が「野球選手でもなんでもいい。みんなが夢を達成できるよう応援します」と激励しました。記念すべき第1回大会は2日間の熱戦の末、木更津第2中学校と昭和中学校が決勝戦で対戦し、木更津第2中学校が初の栄冠に輝きました。



熱戦のようす

文化・メディア振興

青柳正規 文化庁長官の特別公開講座を開催  

学校法人城西大学は、2013年11月27日、ギリシア・ローマ考古学者で文化庁長官の青柳正規氏による特別公開講座「ローマ帝国と日本—異文化としての日本—」を東京紀尾井町キャンパスにて開催しました。

青柳氏は、著名なギリシア・ローマ考古学者・文学博士で、2008年に国立西洋美術館館長に就任され、2013年7月に文化庁長官に就任されました。そして、2006年には紫綬褒章を受賞されています。また、青柳氏は、文化庁長官ご就任以前は本学の特任教授でもあり、今回の講座を共催した多文化共生センターの設立に際しても大変ご尽力いただきました。



講演する青柳文化庁長官

特別公開講座では、人類史上最強の国と評されてきたローマ帝国が、なぜ300年もの長きにわたりその繁栄を謳歌することができたのかを、政治・社会・文化・軍隊・社会インフラなど多角的な視座から考え、ローマ帝国は、近代国家のそれと同じように高度に発達した社会システムをもつ帝国であったという点を指摘されました。また、ローマ帝国と日本社会との比較から文化の相対化を試み、古来からの日本の文化は、安定・均衡・伝統・しきたり・技術の繰り返しを特長とする「穏やかな文化」「循環文化」に位置することを明らかにし、これに「活力」の要素を融合した今後の日本文化の進展を提言されました。

会場となった地下ホールには、一般の方々や城西大学・城西国際大学に留学している中欧や中国などからの留学生や本学教員・学生ら約150名が詰めかけ、皆熱心に講演を聞いていました。

「ドラマプロジェクト」でWOWOW連続ドラマW『かなたの子』に参加 

城西国際大学メディア学部の「ドラマプロジェクト」で学生たちが参加した、WOWOWの連続ドラマW『かなたの子』(原作:角田光代 監督:大森立嗣 出演:坂井真紀、井浦新、宮崎将、満島ひかり、永瀬正敏、藤村志保ほか)が、2013年12月1日から4週にわたってWOWOWにて放送されました。

この番組は、メディア学部講師の辻智彦先生が共同プロデューサー・撮影監督をつとめ、8月と9月の撮影期間中、本学学生たちが撮影・照明・編集補助・制作・エキストラ等で製作に参加したもので、作品の一部は本学東京紀尾井町キャンパス3号棟で撮影して



試写会を運営するメディア学部の学生たち

います。作品完成に伴い12月3日に、紀尾井町キャンパスにて出演者・スタッフをお迎えして全4話の完成試写会を開催しました。

この作品は、罪を背負い過去に縛られた者たちが、過酷な登山の中で自らと向き合っていく物語で、撮影は世界文化遺産に登録が決定して以降、初めてのドラマ撮影として、実際に富士山でも行われました。試写会の上映前後に、辻先生、金田副学部長、WOWOWの高嶋プロデューサー、大森立嗣監督からもご挨拶をいただき、学生たちは、受付や誘導などを務めながら、自分たちが参加した現場がどのような映像になったのか熱心に鑑賞しました。今回のように、実際に放送される番組の現場を体験することは、映像制作を志す学生にとって大変有意義なものであり、貴重な実践授業となりました。

本学では、今後もメディア企業との連携を通じて、将来の映像産業を担い活躍できる、専門性の高い人材育成に取り組んでいきます。

文化・メディア振興

第3回 学生映画コンクールで受賞 

城西国際大学メディア学部・映像芸術コースの学生を中心とした映画制作サークルTAKE 1(テイクワン)の中川寛崇監督作品「ピクシー」が、公益法人 山路ふみ子文化財団の主催する「第3回学生映画コンクール」にて準佳作を受賞しました。

短編映画「ピクシー」は、同TAKE1が2012年に制作した「雨男日記」の第2弾として企画が進み、脚本執筆やキャストオーディションを経て、2013年8・9月に撮影が行われました。

本作のタイトルとなり、劇中にも登場する『ピクシー』とは、人にいざをらすするイングランドの妖精で、主人公・昇を困らせる存在だけでなく「感動」という言葉の本質を教える大事な役回りでもあります。本作は、2013年に新設された東京紀尾井町キャンパス3号棟の地下多目的スタジオでも撮影が行われました。スタジオで撮影することにより、照明の細かなコントロール、セットの設営など、いままで出来なかった撮影が可能となり、作品のクオリティが劇的にアップしました。

中川監督は映画制作を終えて、「作家になりたいという夢を追いかける主人公と、ピクシーという非現実な存在の交流を通して、感動の本質を伝えたいと思いました」とコメントをしました。

TAKE1は、映画への志を高く持った学生が集う映画制作サークルであり、部長でもある中川監督を中心にして、1年から3年までのサークルメンバー、また学外のキャストをも含めた総勢50名以上が制作に参加しました。撮影期間は、11日間にも及び、大小さまざまなトラブルに直面したものの、サークルメンバーの団結力により苦勞を乗り越え、撮影は無事に終了しました。

なお、授賞式は2014年3月16日に行われました。



「ピクシー」の1シーン



撮影のようす

第1回 Theater Fashion Show 実験公演開催 

2013年7月20日、城西国際大学東京紀尾井町キャンパス3号棟多目的スタジオにて、第1回Theater Fashion Show実験公演 LOOPERが行われました。

今回の実験公演は、舞台空間プロジェクト授業を担当する先生方の指導と協力のもと、メディア学部映像芸術コースの学生が主体となって行われたファッションショーです。

今回のファッションショーのテーマは「地球は美しい」で、この公演では舞台空間プロジェクト授業を履修する学生約35名が、日頃学んだものを活かしながら企画、制作、運営に携わりました。衣装のデザインからショーの構成、ステージの設営など、参加者が一丸となって取り組みました。

今回のファッションショーは、物語をベースにした斬新な構成となりました。物語は、世界の創世から始まり、宇宙から地球が生まれるまで、水中での生命誕生と地上の生命誕生、そして世界の末路までを描きました。そして、そのストーリーをイメージした衣装を身にまとったモデル達の華麗なウォーキングに加え、ダンサーによるダンス等が行われ、会場からも「ユニークな発想の衣装が素晴らしかった」「斬新なファッションショーで、とても新鮮だった」「学生達の頑張りが伝わってきた」など、高い評価をいただきました。

今回のファッションショーは、履修学生に加え出演者他、多くの方々からご協力とアドバイスをいただいで取り組んだ結果、学内制作の域を超えた本格的なファッションショーに仕上げることができました。



ファッションショーのようす

建築賞受賞

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年 さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中枢を担うシンボリックな建物です。

同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。



❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、城西大学同窓会の協賛もいただき2004年に建設されました。

その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞しました。



❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 米国建築家協会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会(AIA: American Institute of Architects) ニューヨーク支部より、2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物(2001年1月11日以降完成の建物)についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。



❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年 日本建築学会賞
2006年度 日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。



❖ JIUランドスケープデザイン

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周囲の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。



❖ 旧水田家住宅(母屋)

❖ 城西大学水田美術館

2012年 米国建築家協会 Merit賞
2013年 アーキタイザー・アワード特別賞

城西大学水田美術館は、米国建築家協会ニューヨーク支部より、AIANY Design Awards2012のMerit賞を受賞しました。

また、インターネットによる世界最大の建築物のコンペティション「アーキタイザー」より、2013年アーキタイザー・アワードの特別賞を受賞しました。

本美術館は、学校法人城西大学45周年記念事業として建設されたもので、大学所蔵の美術品展示のみならず国際交流・地域交流をさらに発展させる芸術・文化の拠点です。



❖ 水田美術館外観

美術館

2013年度 水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2013年度の活動をご紹介します。

【城西国際大学水田美術館】

◆水田コレクション展 浮世絵の判型

会 期：5月7日[火]～25日[土]

内 容：浮世絵版画には、大判、中判、細判をはじめ、柱絵判や長大判など様々な判型があります。本展ではバリエーション豊かな判型と続物の作品を紹介し、小特集として歌川広重が描いた房総の名所を大判と中判とで比較しながら展示しました。

関連企画：講演会 5月18日[土]

ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)5月11日[土]、25日[土]

◆第9回 メディア学部卒業制作優秀展

会 期：5月30日[木]～7日[金]

内 容：メディア学部の「情報・映像・デザイン・サウンドを複合的に学び、新しいメディアのかたちをつくる」という基本コンセプトに沿って研鑽を積んできた学生達が、4年間の成果を発表しました。

◆病に負けるな！浮世絵にみる流行り病とくすり

会 期：6月18日[火]～7月13日[土]

内 容：江戸時代、疱瘡、麻疹、コレラなどの流行り病に対し、まじないや養生法を説いた浮世絵が数多く出版されました。また、薬業が大いに繁栄し、くすり屋は目を引く看板を掲げ引札を配るなど独自の広告戦略を展開しました。本展では、流行り病の浮世絵や多彩なくすり広告を紹介し、あわせて当時のくすり屋の様子を再現展示しました。

関連企画：講演会 7月5日[金]

ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)6月22日[土]、29日[土]

◆九十九里浜の網主文化 齋藤滄洲と文人の交遊

会 期：10月1日[火]～26日[土]

内 容：江戸時代から明治前期にかけて、いわし漁で繁栄した九十九里浜の有力な網主は、文芸をたしなみ、文人墨客と交流して豊かな地方文化を育みました。本展では、井之内村(現山武市井之内)の網主・齋藤滄洲が収集した明治前期の作品を書簡とともに展示し、来遊した文人や東京の書画家との交流を紹介しました。

関連企画：講演会 10月12日[土]

ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)10月19日[土]

◆明治の子どもたち 版画にみる遊びと教育

会 期：11月12日[火]～12月7日[土]+大学祭11月3日[日]～5日[火]

内 容：明治時代、子どもの暮らしにも大きな変化があり、浮世絵には、江戸から続く遊びや戦争ごっこといった新しい遊びのほか学校で学ぶ様子や洋装洋髪最新のファッションが描かれています。本展では、楊洲周延や宮川春汀、山本昇雲らの子ども絵を通して、江戸から続く風俗や維新後の新しい文化を紹介しました。

関連企画：講演会 12月6日[金]

ギャラリートーク 11月16日[土]、30日[土]



美術館

【城西大学水田美術館】

◆城西大学薬学部創設40周年記念展 ポーラ・コレクションからみる化粧と化粧品の歴史ー装飾化粧から化粧療法までー

会 期：11月2日[土]～11月30日[土]

内 容：本展では、城西大学薬学部創設40周年を記念し、ポーラ・コレクションの中から江戸～昭和初期にかけての化粧道具や化粧品、当時の化粧風景などを描いた浮世絵、化粧と化粧品の歴史、化粧品の安全性、医療現場における化粧の役割などを薬学的視点から紹介しました。

◆水田コレクション展 近代美人画にみる美の競艶ー芳年から深水までー

会 期：10月29日[火]～11月16日[土]

内 容：明治時代に入ると、画家(絵師)たちは、西洋文明からもたらされた油彩画や写真技術などに見られる、写実性に優れた表現手段に刺激を受けました。浮世絵の世界においても、錦絵の時代が終焉を迎え、浮世絵に描かれた市井の情緒は、風俗画や美人画へと受け継がれていきます。本展では、本年度水田家より寄贈された美人画3点を中心に近代美人画をテーマにした展示を行いました。

◆城西短期大学創立30周年・城西大学薬学部創設40周年記念展 水田家寄贈新収蔵品展

会 期：10月5日[土]

内 容：城西短期大学創立30周年・城西大学薬学部創設40周年を記念し、2013年に水田家より寄贈されました宮川長春《江戸風俗図巻》(絹本着色、二巻、18世紀前半)を含む新収蔵品を特別に公開しました。

◆さいたまの歴史と文化に触れる 越生うちわー現代に残る伝統と匠の技ー

会 期：6月4日[火]～7月6日[土]

内 容：越生うちわは、かつて越生を代表する特産品としてその名が知られていました。本展では、幕末・明治期の団扇絵(団扇用に摺られた浮世絵版画)や団扇が描かれた錦絵をご覧いただくとともに越生うちわの歴史を写真パネルを中心に紹介しました。

◆城西大学薬学部創設40周年記念展 富山売薬の歴史ー富山藩を支えた薬売りー

会 期：4月6日[土]～5月2日[木]

内 容：城西大学薬学部創設40周年を記念し、「富山売薬の歴史ー富山藩を支えた薬売りー」を開催しました。庶民が常備薬すら持てなかった江戸時代初期、富山藩第2代藩主・前田正甫公が考えた「置き薬」という画期的な流通革命により発展を見せた富山の売薬。その歴史についてパネルを中心に紹介し、合わせて、「薬研」をはじめとする薬の調合器具や売薬商人が背負っていた「柳行李」などの実物資料も展示しました。



「真のグローバル教育に向けて」



駐日スウェーデン大使
ラーシュ・ヴァリエ氏

今日、真に創造的なグローバル化を進展させる機会は、果てしなくあります。私達の使用している言語と社会的な習慣が違っているのはあたりまえで、こういった相違点によってこそ、私達はより創造的になれるのです。

また、真のグローバル教育とは、異なった考えに対して開かれたものであるべきです。失敗を恐れることなく、当然だとされて育ってきたものを越えて考えることにより、人は達成感や成果に辿り着くのです。グローバル化は、交流の行程であると同時に、成長への行程でもあるのです。

私は、城西大学および城西国際大学が進めてきたグローバル人材育成の取り組みや国際交流に賛同し、これまで何度も講演をする機会を得ました。それらを通して、ご参加の皆様にもスウェーデンの歴史や産業・教育・福祉制度などにおける特長や、日本との相違点などについての理解を深めていただけたものと思っております。

今後も貴学が真のグローバル教育を実践され、国際的な視野、自由で柔軟な発想を持ったグローバル人材を一人でも多く育てられることを願っています。

「中欧と日本の架け橋となる人材育成を」



駐日ハンガリー大使
セルダヘイ・イシュトヴァーン氏

城西大学・城西国際大学は、特に中欧の国々との交流を積極的に深めてこられましたが、中でもハンガリーに関しては、現在では代表的な9大学と協定を結び、これまでに両国から約250名の学生が相互に留学し、ハンガリー学生への就職も増えてきています。

さらに、昨年11月のオルバーン首相の貴学訪問を記念して、今後の中欧地域との更なる共同研究・学術交流・人材育成の推進を目的に、法人内にこの度日本で初めてとなる「中欧研究所」が設立されました。私も初代名誉所長の一人として、本研究所が国際的に知名度ある機関に成長できるよう全力を尽くす所存です。

そして、研究所の最初の活動として、この2月に「V4+日本 学生会議」を主催しました。城西大学・城西国際大学およびV4の学術交流協定締結校の学生らが出席して、V4各国の相互理解および日本との連携強化に関して活発な議論が展開され、大変感激しました。

今後も、これらの活動を中心にしながら、貴学がハンガリーと日本の未来に寄与できる、より多くのグローバル人材を輩出されることを願っています。

「大学改革と次世代のグローバル人材育成」



株式会社三井住友銀行
取締役会長
北山 禎介氏

日本は、グローバル化の進展、急激な少子高齢化や東日本大震災からの復興などの諸課題を抱え、依然として大きな変革の渦中にあります。国の持続的発展のためには、山積した課題を解決し、社会の変革を担える人材の育成が不可欠であることは論を俟ちません。とりわけ、世界を舞台に活躍できるタフネスとグローバルな視点、異文化に対する深い理解と教養を併せ持つ次世代のグローバル人材の育成は、決定的に重要です。

グローバル人材育成の観点からも、教育を集大成し社会につなぐ大学の役割は、一層重要度を増しております。大学改革は、日本が再び世界の中で競争力を高め、輝きを取り戻すための大きな柱の一つになっています。

学校法人城西大学は、かねてより、世界の様々な国との交流を進め、グローバル教育に精力的に取り組んでこられました。今後も真のグローバル人材を数多く輩出され、更に大きな役割を果たしていられることを心より期待しております。

「スポーツを通じた人材育成、国際交流を」



岡田 武史氏

私は、サッカー日本代表監督、中国スーパーリーグ杭州緑城の監督を務めたほか、海外の大会等にも数多く携わってきましたが、スポーツによる国際交流の重要性をあらためて痛感しています。

そして、スポーツを通じて地域・国際交流をはかっている学校法人城西大学の活動を素晴らしいことだと思っています。この1月には、「Prince Takamado Memorial Sports Park」において「川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会」が開催され、地元の小学生たち14チームが熱戦を繰り広げました。このような活動は、地域の人材育成に非常に意義深いことであり、私でもできる限りの応援をしているところです。

また、姉妹校である韓国・韓南大学のサッカーチームを迎えて親善試合を行なうなど、スポーツによる国際交流も積極的に展開されています。

創立50周年に向けて、今後もスポーツ振興を通じて地域社会に貢献されると共に、リーダーシップを身につけたグローバル人材を多く輩出されることを心から願っています。

編集後記

2013年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。本学がこの1年間に取り組んださまざまな社会貢献活動をキーワードごとに分類して紹介いたしましたので、どうぞご覧ください。また、美術館関係と建築関係については、年度を超えて掲載してあります。

2008年に初めて社会貢献活動報告を作成して以降、毎年の作成作業を通じ、学校法人全体として活動内容を把握してその意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度へ活かすことができました。また、昨年度版までをご覧いただいた多くの方から、本学が行ってきた社会貢献活動に関して励ましやお褒めの声をいただいております。

今後も、大学を取り巻く方々との連携を取りながら、よりいっそうの地域・社会・国際貢献活動に取り組んでまいります。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の社会貢献活動にご理解をいただくとともに、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

学校法人城西大学 法人本部
社会貢献推進チーム
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

水田清子記念ローズガーデンに植樹された世界各国のバラ

水田清子記念ローズガーデンは、城西短期大学創設者 故水田清子名誉理事長の功績を顕彰するとともに、短期大学創立30周年と薬学部創設40周年を記念して2013年10月に城西大学坂戸キャンパス内に設立されたもので、約600平方メートルの敷地に世界各国のバラが植えられています。

記念式典にあわせて行われた同ガーデンのオープニングセレモニーでは、ブルガリア大使から「ナディア」と呼ばれるバラの苗木をいただき、関係者による植樹式も行われました。また、2014年2月に城西大学水田美術館にて行われたイスラエルテーブルウェア展にあわせて、ホロコースト記念館より本学に「アンネフランクの形見のバラ」が6鉢寄贈されました。

ローズガーデンは、8千人の本学在学学生や9万人の卒業生たち、そして多くの地域の人々にとって心安らぐ憩いの場となっています。

